

ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。



**養育家庭(ほっとファミリー)
体験発表集
(平成21年度)**



東京都福祉保健局少子社会対策部

「養育家庭(ほっとファミリー)体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約3,900人います。このような子供たちを、実の親にかわり、家庭的な環境の下で育てているのが「里親」です。

都の里親制度は、「養育家庭」と「養子縁組里親」に大きく分かれています。とくに、養子縁組を目的としないで、子供を家族の一員として迎えていただく里親を「養育家庭」、又は「ほっとファミリー」という愛称で呼び、普及啓発につとめています。

そして、このような子供の状況とほっとファミリーを理解いただくため、都では各区市町村と協力し、養育家庭（ほっとファミリー）体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成21年度に開催された養育家庭（ほっとファミリー）体験発表会において、ほっとファミリーの方々に発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

初めて子供に出会ったときのことや交流中の出来事、委託後の子供の赤ちゃん返りや問題行動などへの対応など、子育てに奮闘している様子が描かれています。また、真実告知や実子との関係など、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういったご苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、ほっとファミリーをやっている良かったというものや、子供から喜びや幸せをもらっているというものなど、ほっとファミリーとして経験した子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成22年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

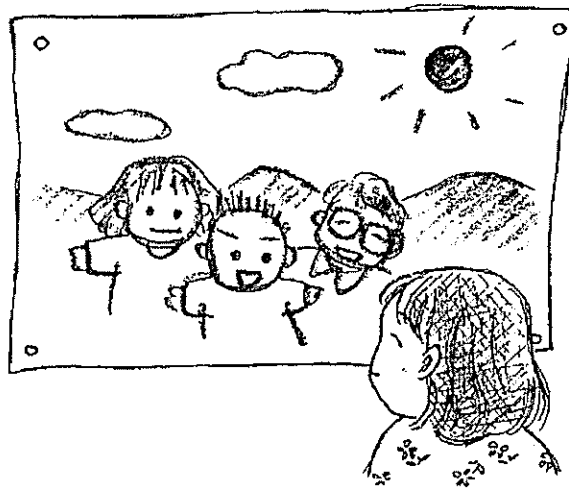
平 倉 秀 夫

目 次

1	A君 ありがとう	2
2	イメージと現実の狭間で.....	4
3	少しずつ近づいて.....	6
4	養育家庭の良さ.....	8
5	里子は地域の一員	10
6	みんなママやパパが欲しい.....	12
7	子供を丸ごと受け止めることの難しさ.....	14
8	短期でお子さんをお預かりして.....	16
9	子供との交流から学んだこと.....	18
10	育てることで自分も育つ.....	20
11	旅立つ娘に、今伝えたいこと.....	22
12	施設も里親も長い目で.....	24
13	「癒し」を感じてくれたら.....	26
14	不安を乗り越えて.....	28
15	おうちかえる～.....	30
16	コウノトリが運んでくれた宝物	32
17	幸せ路線へ.....	34
18	長い交流を乗り越えて.....	36
19	子供にとっての新しい家族の形	38

養育家庭(ほっとファミリー)

体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、19人のほっとファミリーの方たちの養育体験が赤裸々につづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1 A君ありがとう

【里母】

私は、平成21年3月までA君という男の子を3年半預かっていました。3年生の終業式を終わって実家の方へ戻すことができました。

A君は里親手続きをしてから1年後に話のあった子です。5歳のその子は公園に放置され、髪の毛は伸び放題、汚れた衣服で足のくるぶしまで真っ黒で、裸足だったというのです。警察の保護を繰り返し、食事もなく与えられず、痩せていて背も低かったのが児童相談所にきてから伸び始めているとのことでした。ネグレクトで被虐待児ということで、本人はニコニコしていて明るくかわいい子で、そんな過去は見受けられませんでした。主人は一遍で気に入る、交流が始まると「今日はおじちゃんのところに泊まりに行く、一緒に行く」と主人の手を離さず、しゃがんで泣いたのです。施設の中でA君だけ外泊をしたことがなく、日帰りなのに「今日、俺、外泊」と2～3人に話していました。長期外泊の7日目で施設に送っていった時には柱にすがって別れを嫌がり、大泣きをしました。辛くて二人とも逃げるように帰ったことを覚えています。11月に、迎えに行くようにとの連絡があり、A君は我が家の里子になりました。その日から私の本当の闘いが始まりました。施設からの荷物が届いた日、ダンボールを開けていると、荷物を取り出してわめき、暴れだし、ばら撒き、そこいら中に散らかして、もう止まりませんでした。まるで火山が爆発したようでした。やっと彼の興奮が納まると、私がA君を抱きしめて泣いてしまいました。主人は「飯さえ作ってくれば良いから」と言って、約1ヶ月間2階から降りてきませんでした。コンビニではおもちゃを欲しがって泣き始め、文句を言って泣き、怒鳴って泣き、ずっと泣き続け、涙がかれるほどという言葉がぴったりでした。長く泣くことが続いたので、テープに泣き声を録音して彼が泣くと流しました。テープと一緒に泣いて、最後は笑い出してしまい、長く泣くことはそのうちしなくなりました。赤ちゃん返りもあり「哺乳瓶でミルクを飲みたい」と言い、粉ミルクから始まって牛乳、ジュースと続いて止めました。次はおしゃぶりです。ガチャガチャ、クチャクチャと噛み、歯が生えているのでおしゃぶりではありません。決して人前ではしませんでした。1年生の間は続いていました。何もかもが0歳児からやり直しでした。この子が一人前の子供として自立するためにすべてが必要なことでした。

A君は絵を描くのが好きでした。怖い絵が多く、絵本も怖い本を好んで選んでいました。自分が殺されている所を描いた絵は、あまりの凄まじさにびっくりしてしまいました。半年過ぎた頃、主人とA君の二人で江ノ島に行きました。初めての海に小躍りして喜び、帰ってきて描いた絵がびっくりするほど明るく、雲の絵をいっぱい描いていました。手を挙げる動作にさえ怖がり、餅つき、ドッチボールなど何でも後ずさりをしてしまいます。1年たった頃サッカーを主人と見に行つて怖いものと縁が切れました。今ではサッカー部で活躍して

います。

A 君は生まれてから予防注射を 1 本も打っていません。A 君の命に関わる大事なことです。白紙の母子手帳を作り、風疹、麻疹、3 種混合、ポリオ等時間を置いて次々に実施しました。赤ちゃんの中で一番大きい子でした。A 君もよく頑張りました。

2 年が過ぎ、すっかり落ち着いてきたと思った頃、兄弟との交流が始まりました。面会の日には学校から急いで帰り、楽しみにしていましたがしかし、その翌日から再び A 君がたいへんになってきたのです。クラスの中で大声を出したり、物をかじり始め、ノート、教科書、下敷き、ランドセル、机など何でもガリガリ噛んで再び泣き始めました。便をトイレの壁に塗りとくり、物事がすべてルーズになり、次の行動の切り替えができないと担任の先生より電話を貰いました。宿題はやらず、私も自分の坐骨神経痛もあり、心も体もへとへとになりました。自分のことは何一つできず、A 君にかかりきりでイラつき、彼にも優しくできないでいました。桜の満開を迎え、少しずつ自分を取り戻し、子供を地域で育てる時代という言葉に深く賛同し、里親を希望した私ではないか、子供の可能性を信じて、希望の翼を広げて飛び立つまで心を砕き、力を注ぎひたすらに全部を受け入れて行こうと A 君と手をつないで歩きながら気持ちが落ち着いていったのを覚えています。A 君は、その後も兄弟とキャンプに行ったり、母親との接点を持ったりして、外泊ができるまでになっていきました。

A 君によって夫も変わりました。まるで自分の子供のようにかわいがり A 君もよくなっていました。ゲームを買いに秋葉原まで行き、男同士でお風呂に入ったり、一緒にテレビを見たりして、夫は A 君のいい友達でした。

3 年生になると A 君は見違えるほど変わり、首の汚れもなくなり、笑顔が素敵でクラスの皆から笑顔大賞と言われるほどでした。代表で司会をやったり、学芸会で主役の一人をしたり、友達もたくさんでき、国語、算数はクラスで一番でした。本に関しては毎晩寝る前に読み聞かせをしてやり、500～600 冊は読んであげたと思います。

A 君と夫と 3 人でよく旅行に行きました。鴨川シーワールドのシャチに驚き、感激していました。旅行の時はどんなに朝早くても飛び起きて、何日も前から楽しみにしていました。A 君が変わったのもこんな旅行が楽しかったことが原因だったかもしれません。A 君は私のことを「みいさん」と呼びます。でも人前では「お母さん」でした。私は下手な絵ですが描いています。私が絵を描いている時は A 君も絵を描いて、私が物語を作っている時は A 君もお話を作り持って来ていました。その時が私と A 君の大切な絆の時間だったと思います。昨年 3 月にクモ膜下出血で倒れ、絵を休んでいると「みいさん、絵をやめたの？絵やめないでね」と言われ、はっとしました。「みいさんの料理が一番おいしいよ」ともよく言ってくれました。子供とはありがたいものです。心を豊かにしてくれます。A 君は私たちの大切な宝物でした。私たちは別れの日泣きませんでした。数え切れないほどの人に守られ、助けられて歩んだ道のりでした。A 君、元気でね。そして、ありがとう。

2 イメージと現実の狭間で

【里母】

私が里親をやろうと思ったきっかけは、私も夫も福祉関係の仕事をしていて制度を知っていたことと、子育てを経験してみたいという思いがあったからでした。おそらくNHKの「瞳」という連続ドラマのようなにぎやかで楽しい家庭をイメージしていたのだと思います。

いまから 2 年前に里親登録してその年のクリスマスイブに今の子供を迎えました。私たちは子育て経験がなかったうえ、その子供は不思議なことに交流していた約 6 ヶ月間は全く問題がなかったものの、いざうちに来ると所謂「試し行動」をきっちりと 3 ヶ月ごとにやってくれました。彼の頭の中には一緒に暮らしたことがなくても実の母親のイメージがしっかりあって、委託前「僕はSさんちの子供になってSという姓を名乗って、お父さんお母さんと呼ぶんだよ」と言っていたのが、委託が決まった途端「僕はやっぱり自分の姓で暮らしたい。Sとは名乗りたくない」「Sさんのことをお父さんお母さんとは呼ばない。やっぱりそれは変だもん」と変わったのでした。結局私たちはそれを受け入れ、彼は私や夫のことを今でも名前と呼んでいます。またうちに来た当初から私とは絶対にお風呂に一緒に入りませんでした。6 歳の子供が「恥ずかしいから」と言うのです。何かとても微妙な距離感がありました。

また、些細なことでパニックになって「もうこんな家いやだ」と近所中響き渡るくらい大泣きすることも結構ありました。そんな時はなだめながらも、うちにはうちのルールがあって、それは譲れないということを彼に伝え続けました。

あとは、落ち着きがないことで、うちに来て半年位の間何度も病院に行くような大怪我をしたことです。最初は私たちだけで何とかしようと思っていたのですが、さすがに児童相談所に相談に行きました。そのときに、おおよその育成歴は確認できましたが、詳しいことはわかりませんでした。小さい頃からずっと継続して関わってくれた人が、児童相談所にも施設にもいなかったからです。その時は胸を突かれる思いがして、改めてどんなことがあっても私はやっぱりこの子を見て行かなければならないと思ったのでした。

私はこの子を引き受けて以来、目の前の問題行動に翻弄されるあまり、勝手に「養育家庭」のイメージを作って、そこに何となく子供を当てはめようとしていたのではないかということ、更に私たち夫婦だけではなく様々な人たちの援助を受けていかなければ子育ては成り立たないということに気付くことができたことでした。

私は子供と向き合うために必要なことが 3 つあると思います。その 1 つは、よき相談相手を探すということです。自分の夫、父母や家族、親戚の人たちは身近でとても重要な存在です。また、心理士や里親担当、子供担当といった児童相談所のスタッフからのアドバイスや面談などにより「試し行動」なども少しずつ落ち着きを見せてきています。特に 2 年生進級時、新しい担任と相性があまりよくなくて学校でいろいろ問題を起こしたのですが、学校

との調整も児童相談所スタッフに対応していただきました。また、里親と子供を支援する目的のアン基金という団体があります。お願いをすると先輩の里親さんが月 1 回訪問してくれて、じっくり話を聞いてくれたうえ「Sさん、すごく頑張っていると思う。もうできないという気持ちには皆なるんだよ」などとアドバイスをしてくれました。自分が認められると、また子供に向き合う元気がもらえるのです。このような団体だけでなく、里親同士の情報交換の場を通じて体験を共有することで大いに勇気付けられることも沢山ありました。地域の中でも、子供が「この人、偽者のママなんだよ」などと言ったことから、私は子供の通う保育園や小学校で学期の始めの保護者会でこの制度の話をしてお母さん方に理解していただくことにしています。それ以外にも古くからの友人が心の支えになってくれています。

もう 1 つは、子供を理解するための努力です。例えば「愛着障害」とか「学習障害」といわれる特性を持つ子供への接し方や考え方を本で勉強することも自分にとってとても役に立ちました。

最後の 1 つは、自分の持っているイメージをもう一度見直すということです。ただ漠然とした『温かい家庭といい子に』を実現させることにはこだわらず、目の前にいる子供が幸せだと感じるためにはどうしたらいいのか、ということを考えることが大事なのだと思っています。

今でこそ、わりと落ち着いた生活を送っているうちの子ですが、1 学期は授業に出られなくて保健室で過ごすことも多い状況でした。少し改善が見られるようになった時私たちも「すごく頑張ってるね」と言ってあげると、子供も自尊感情が出てきて「そう、おれってすごいんだよ」と表現できるようになってきます。こういった日常のやり取りが徐々に不安を解消して落ち着きに繋がっているのだと思います。

子供と過ごしてきたこの 1 年半を振り返って、家族というのは私も、夫も、子供も、みんなが努力を重ねて作っていくものなんだなということを痛感しています。うちの子もそうですが、施設で育った子供は見捨てられる不安を常に抱えています。

それを解消するには、日常生活を積み重ねることによって里親の家で暮らすことが楽しいと感じてもらえるようになることが一番なのです。安心できる環境が整ってこそ自分を大切に、人から愛され、人が好きになるようになっていくのではないのでしょうか。

そういう意味で、ようやく我が家は一步步つ前に進み始めていると実感できるようになりました。これからも楽しい家庭作りを心がけていきたいと思っています。



3 少しずつ近づいて

【里母】

現在、我が家は、夫、私と、男の子の里子K君の3人で暮らしています。実子はいません。20年以上前、子供ができずに悩んでいた私は、新聞の投書欄で里親さんがいろいろ投書されている記事を読み自分もやってみたいと思いました。でも、夫が自営業を始め、私も手伝うことになり大変忙しく、その後、親の介護も加わり、頭の片隅にいつもやりたいという気持ちを残したまま時間が過ぎてしまいました。実際に里親登録したのは約2年前です。このように長い間やりたいという思いを持ち続けてきましたのは、40歳のときに男児を死産したことが大きいと思います。

登録9カ月目でK君を紹介されました。K君は、当時グループホームという、幼稚園児から高校生までの子供男女6名と世話をする先生数名が一軒家で生活する施設におり、大変元気で、子供らしいかわいさにあふれた子供で、私たち夫婦は舞い上がるような気持ちになり、グループホームの責任者から言うことを聞かない子供だけれど大丈夫かと言われてもあまり注意を払いませんでした。

でも、交流が進み、我が家に泊まるころから、自分の主張を絶対曲げない子供だということがわかりました。大変頭のいい子で、自分でも頭のいいことは承知していて、頭のいい自分は人の指図など受けないと、優しく対応していた私たちは甘く見られてしまい、私たち夫婦の方こそ自分の言うことを聞けとなってしまう大変困りました。児童相談所からは、家族とか家庭を知らないで育った子供なので、他の里親家族と交流して親子の関係などを見せてほしいと言われました。この時、6歳の子供にとって知らないということは、ゼロに近いくらい知らないんだということに気づかされました。

確かにK君は、「なぜ自分だけが（夫や私の言うことを）一方的に聞かなければいけないのか説明して。自分が言うことを聞くのなら、（夫や私も）自分の言うことを聞け」と言いました。「私たちは友達ではなく保護者なんだから」と言いますと、「保護者って何？」と聞かれ、ああ、言葉が通じないと思いました。それからはサザエさんやドラえもんのような家族の出てくるアニメなどを見せ、家族や家庭について少しでも知ってもらいたいと努めました。本人も結構真剣に見ていました。

現在、交流から数えますと1年ぐらいたちますが、約1カ月前より急に赤ちゃん返りし始め、寝るときには「バブバブ」と言いながらはいはいして布団の敷いてある部屋まで行くようになりました。児童相談所の担当者から、「だっこしてあげてほしい」と言われ、だっこするとそのまま眠ることもあります。我が家に来たばかりのころは、30分以上もタックルされてへとへとになったときから比べますと随分様変わりしてきました。ここ1週間前ぐらいから、「大好き」と言って私の胸に顔を埋めてきたりします。これも、半年前「大好き」と言って首を絞めてきたときとは大違いです。その時は、本当に大好きなのか、それとも首

を絞めているのかわからなかったのですが、夫も首を絞められたというので、やっぱり首を絞めてきたんだと思いました。まだまだ朝、起こそうとしたら蹴られたり、ひどいときはほったに平手打ちを食らわされたりするときもありますが、少しずつ近づいてきてくれるのを感じます。

子育て自体はまだ悩みが多いのですが、多くの人と知り合いになれば、交流していて楽しく、よかったと思っています。また、K君が来てくれてから日々に変化があり、2人で漫然と暮らしていたころから比べますと、とても生活が生き生きしています。

子供を育てて大変だったことはたくさんあるのですが、一番大変だったのは、朝K君を幼稚園のバスに乗せることでした。園バスの運行の関係でグループホームにいた頃よりは1時間早く家を出なければならず、よく毎日間に合ったと今でも思うくらい綱渡りの毎日でした。「早く」と少しでも手を引こうものなら、てこでも動かなくなってしまうため、いかに急いでいることを悟られないように迅速に行動するか知恵を絞る日々が続きました。気がついたら4カ月で9キロ体重が減っていました。

現在、小学校1年生ですが、入学前に大変心配していたのは、クラスの子供たちと仲よくやっていけるかということでした。施設の子供たちの中には人間関係がうまく作れない子がいると聞いていたからです。

「幼稚園でいじめられる」と言うので、どのようにいじめられているのか聞きますと、皆が「K君には気をつけろ」と言って遊んでくれないそうです。仕方なく年下の子と遊んでいるのですが、すぐに思いついたのは、大勢の子供が暮らし、常に競争にさらされている施設のルールをそのまま幼稚園に持ち込んで他の子供が引いてしまっているのではないかとことです。それで、「1人だけ目立ってはだめ。みんなと行動を同じにして仲よくしよう」と繰り返し言いました。毎日、「みんなと仲よくしようね」と言うのですが、「何で？」と言ったりすることもありました。

何とか友達と仲良くできるようになったようですが、それでも不安でしたので小学校入学時に学童に入れました。最初は「つまらない」と嫌がっていましたが、じきに友達ができて、今は安心しています。同じ年ごろの子供たちとよく遊んでいるようです。

朝、登校のため友達が迎えに来てくれますが、一緒に行けることはあまりありません。私が「用意がまだできていない」と迎えに来てくれた子に言うと、「やっぱり」と言って学校に行ってしまう。それは、夜なかなか寝ない。それで朝は起きられない。また、目が覚めてもわざとごねて起きないこともあったりするからです。寝つくまで添い寝している私には、睡眠時間が減ってとてもつらいことのひとつでもあります。

里親制度には研修が色々揃っており、その中の『学童期の子育て』という研修を受講したのですが、他の子ができるからといって里子ができるとは思わないでほしいと言われています。なかなか皆と行けなくても長い目で見ていこうと思っています。

4 養育家庭の良さ

【里母】

私の住む市は、子育てがしやすい環境にあります。自然にも恵まれ、山がとてもきれいで、すぐそばに川も流れていて夏にはバーベキューもできます。

我が家は、主人と高2を頭に中3、中1、小5の4人の娘がいます。一度は社会に出たものの、子育てと仕事の両立に悩みました。そんなとき親戚が養育家庭をやっていたことを思い出し、「子育てだったら私にもできるかな」と思いました。ただ、子育ては母親1人が頑張れば良いものでもなく、家族みんなの協力が必要ですから登録前に主人や子供たちと相談したところ、親戚が養育家庭をやっていたこともあり、「やろう、やろう」とみんな前向きで、登録となりました。

里親認定証が届くと、「いよいよこれで私も養育家庭だ。いつ子供が来るのかな」と期待しました。家庭を必要とする子供達がいると謳って養育家庭を募集していたので、すぐにでも子供が来るのではと待っていました。ところが1週間、2週間、電話の1本もありません。「何で？」とこちらから児童相談所に電話をしたこともありました。

未委託でも忘れられないようにと思って、児童相談所や里親会などから案内されるサロンなどの交流会や研修によく参加しました。すると先輩養育家庭のいろいろな話を聞くことができました。傷を負った子供の心というのはどれほどのものかということをしみじみと知らされました。家庭に慣れるまでの葛藤、どこまで自分を受け入れてくれるのだろうかという試し行動。例を挙げるときりがないほど、それぞれの子供にいろいろなことが起きるのです。養育家庭はもちろん、やって来る子供にとってもある意味「闘い」があるのだと思いました。小さい子が来て「また、かわいい子を育てられる」と楽しみに思っていたましたが、生の声を聞き我が子の子育てとは違うことが起きるのだろうと覚悟のようなものもできました。いい勉強になりました。

結局、登録して2年間未委託でした。我が家は女の子ばかりですから、受け入れる子供も女の子を希望していましたが、未就学児までの男の子まで範囲を広げ、待ちに待って、ようやく2歳2カ月の男の子の紹介がありました。実親との交流をしていく子供でした。初めての面会では、どういうふうに接したらいいのだろうとこちらも緊張しましたが、いざ会ってみると可愛く、2回目の面会では私に飛びついてきてくれました。そうなるともう可愛くて、遠い乳児院に何度も通って委託になりました。我が家では初めての男の子で少々不安はありましたが、実子であるお姉ちゃんたちの協力を得ながら育ててきました。やんちゃで男の子らしく育ちました。この子は、ある程度自分で自分のことができるようになる小学校就学頃には、家庭復帰するという前提で委託を受けましたが、来春がその時期です。子供を送り出す経験は初めてですが、きっと寂しいだろうなと思っています。

ところが、ある日、短期で中2の男の子の話がありました。彼は保護所にいて、大好きだ

った学校にも行けず、外出の自由もない。このまま一時保護所に長くいるのはよくない。かといって、施設もなかなかない。そこで「預かってほしい」と言われ、驚きながらも断れず、「1カ月でいい」と言われ、「それなら何とかしましょう」と引き受けました。

改めて考えてみると、社会的養護を必要とする子供の事情というのは大変なものです。その中2の子も父子家庭で、ある日突然父親が彼を育てることができない状態になってしまいました。そうすると、彼は身寄りがないので一時保護所に入所し、それまでの生活が一変するわけです。

体の大きい子で「いやあ、本当に大丈夫かな」と思いました。委託中は、帰宅が遅くなったり、警察のご厄介になって迎えに行ったりしたこともありましたが。そんな中、子供担当の児童福祉司は対応が早く、連絡もこまめにくれたため彼との生活がやってこれたと思います。彼自身は真っ白で、本当に純粋、素直、どちらかというと周りに流されやすく、もうちょっと要領よく生きなさいよみたいな感じのタイプの男の子でした。彼は、父親が仲よくしていた知人がいて、その人に会いに行ったりして、彼は自分の居場所、引き取ってくれるところを一生懸命探していました。本当につらかったと思います。その他にも、しみじみ話をすると、彼がボロボロと涙を流すこともありましたが。何かあってもつかばってあげたくなるような子でした。結局、委託は2ヶ月間に伸びましたが、彼の行き先は私も知っている施設で「彼もちゃんと中学校生活が送れるな、よかったな」と安心しました。最後に子供担当の児童福祉司が「お礼を言いなさい」と言ったとき、彼が大粒の涙を流してくれました。うちでひきとって良かった事を感じ、また、本当に養育家庭をやってよかったと思えました。胸がいっぱいになりました。

その後、彼は中学を卒業し、住み込みの仕事に就きました。児童相談所の手を離れて、自立しました。そうしたら、一番最初に我が家に来てくれました。一著前に手土産を持って、ちょっと突っ張った感じで。不思議と玄関に来たときに「あっ、来たな」とわかりました。2カ月間しか住んでいませんでしたが、お互いどこかで絆を感じていたのかもしれない。措置解除後の繋がり、それが養育家庭の良さではないかと思えます。

今、3歳の男の子が委託されて4、5日目くらいになります。「お母さん」と呼んでくれるのが良いような、悪いような年齢になってきてしまいましたが、可愛いもので「お母たん、お母たん」と言って、癒し系の男の子です。今度は一生おつき合いすることになると思います。

帰る家がない、家庭を知らないということは、生きていく上においてどういうことなのか、その寂しさは図れるものではありません。受け入れた子供が家庭に触れ、幸せになった分、私たちは今、今まで感じる事の無かった家庭という、家族という幸せを感じています。これからも多くの子供を受け入れていきたいと思っています。

5 里子は地域の一員

【里母】

私は実子を男の子ばかり 5 人育てて、今は里子が 2 人いる生活をしております。里子は 6 年目を迎えた高校 3 年生の男の子、そして、1 年経った 5 歳の女の子がいます。

私は 25 年間、地域の子供に関係することをしており、その中で主任児童委員として 4 期、12 年活動してきました。主任児童委員として自分の担当した子供が里親のところへ行き、その後がわからないことがあったので、私も児童委員をやりながら里親になれば担当した子供を自分の手で育てられると思いました。子供にとって住みなれた環境で生活ができれば、不安や寂しさが少しはなくなるのではないかという思いが強くなったので、里親になるという決心をいたしました。家族は、「お母さんができるんだったらいいんじゃない」と了解をしてくれました。でも、やっぱり夫は「大丈夫？」という気持ちがあったのだろうと思います。いろいろな活動をしているので、そういう中で養育家庭もするとなると大丈夫かなと思ったようですが、「あなたの生き方だからね」と判断してくれました。そして東京都の研修を 2 人で受けて認定されました。

はじめの子供は、児童相談所から短期間受けてくれないかと話があり、面談をするとすぐに決まりました。子供が生活していた場所が私の住んでいる地域のすぐ近くだったこと、短期ということ、高校受験を控えている中学 2 年生ということで早く安定させたいということでした。当初は短期間と言われていたその子も、様々な事情から 6 年目を迎えて、来年の 3 月措置解除になる 18 歳を迎えます。うちから里子として自立していく第 1 号です。

その後、短期の子供を何人か受けました。中には多少非行性のある子もありました。その子供は、私が児童委員として担当していた子ということもあり、安定した家庭で生活させてあげたいとの思いがあり、3 カ月という期間限定で引き受けました。家の金品に手を出してしまったり、万引きをして警察のお世話になったりということもありました。けれども、やはり子供はどの子も良いところを持っていて、家族の間では反抗もなく順調でした。年ごろで、表に向かって不満を出してはいましたが、家の中ではとてもいい関係で過ごすことができたなと思っています。

私はそのときに思ったのは、養育家庭制度の良いところは、児童相談所から預かっていること、児童相談所の担当の職員と綿密に連携がとれるということです。いいと思って受け入れても、子供の個性や相性というものもあるので、あまり頑張らないで児童相談所と相談をするところが良いと思っています。

私は女の子を育てたという経験はなく、育ててみたいと思っていました。女の子なら、幼児を受け入れたいという家族の希望もあったところに、児童相談所から思いもかけず女の子のお話があり、私は心が弾む思いがしたことをはっきりと覚えています。でも、知的障害がある子供だとわかり「育てられるだろうか」という不安が先に立ちました。夫と一緒に不安

半分で面接に行き、児童相談所の職員と子供が生活している施設職員の方と一緒に面接をしました。「このまま施設にいてではなくて、家庭的な環境で育ててほしい」という職員の言葉に後押しされ、その子に実際に会いました。私はもうそのときに「この子を育ててみたい」という気持ちが強くなりました。それから交流をし、お泊まりの訓練を経て里子として我が家に来ました。今は保育園に入り同年齢の子供の中にいることで、多くの心配事はなくなりつつあります。おぐれていた言葉、実年齢より 2 歳はおぐれているという生活体験、友達と何かやる楽しさ、すべてを学んでこの半年の園生活での成長は著しいです。1 年前、言葉も半分くらいはわからず、夜はおむつが取れず、不安な気持ちをかみつく、ひっかくなど攻撃的な態度であらわしていた子でした。私はできるだけ 2 人だけの時間をつくるようにして信じて寄り添って過ごしました。泣いたり、甘えたりということもしなかった子ですが、最近大きな声で私を求めて泣くようになり、抱っこをせがむようにもなりました。夜寝るときも、8 時になると 1 人でお布団に行き寝るような子でしたが、今は「おばちゃん」と時計を指さして寝ようと合図をします。一緒に寝てほしいと感じ、私の隣で寝るという幼児時期の体験を今やっとし始めていると感じています。これからこの子がどんなふう to 育っていくか、私は楽しみにしています。

家庭や親に一時的に恵まれなかったというだけで、子供に何か特別な問題があるわけではありません。だったら、普通に個性のある子供を育てると考えたら、とても楽しくなりました。今、私は自分の気持ちをそんなふう to 切りかえてこの子と生活をしています。

私は既に 65 歳になっており、実子の子育ても一段落し、もし養育家庭にならなかつたら今どんな生き方をしているかと思っています。でも、養育家庭をしていることによって私は生かされているのかなと思っています。65 歳になると養育家庭の制度上では新しい里子は短期の見通しがある子ということになっていますが、この年齢だからできる子育てがあると思うので、今いる子を育てながら里親を続けています。

また、私は養育家庭が地域の中でどのように里子たちを育てながら、生きていくかということが大切だと感じています。これからは里子も地域の中の一員として育てていくことが大切だと思うからです。地域の中でみんなが声をかけてくれて、一緒に育ててくれていることが私はとても助かっています。里子でなくても子供というのは地域で自分を知ってくれている人がたくさんいることが幸せなのではないかと思っています。また、そうすると自然に地域の人も養育家庭を見ているわけですから養育家庭制度の理解にもつながっていくのかなと思っています。

今、子供の育つ環境は決して良いとは言えないと思います。苦しむ子供がいるときには苦しむ親もいるはずですが、でも子供はたくましく生きる力を持っていて、大人の少々の手助けで伸びて行く力を発揮します。その少々の手助けを今後もしていきたいと思っています。

6 みんなママやパパが欲しい

【里母】

私の場合、里子が委託されてまだ3か月なので、体験というよりは、今までの経過を発表させていただきたいと思います。

子供は家庭で育つことが最も大事だと考えていた私は、実子が自立したら養護施設の子供を引き取って育てたいとずっと思っていました。8年前に娘がひとり暮らしを始めた時に、まずフレンドホームからと思い、近くの養護施設を訪ねました。初めて施設を訪ねた時のことは、今でも忘れられません。すぐに何人かの子供がぱあっと寄ってきて、その中の一番小さい2歳ぐらいの男の子が、自分の名前を言って、「〇〇ちゃんのパパ？」としきりにまわりついてくるのです。みんなママが迎えに来るのを待っているのだと思うと、何とも言えない切ない気持ちになりました。

最初にフレンドホームとして迎えた4歳の女の子は、とても人懐っこく、甘えん坊な子供でした。迎えにいく前日からリュックを背負って楽しみにしており、帰る時には、施設の玄関で「帰りたくない」と大泣きでした。「また来るからね。今度はいついつ来るからね」と日にちを約束して、やっと帰るような状態が2年間続きました。その子が来年小学校という時に、施設から里子として引き取ってもらえないかと話がありました。その時には、まだ養育家庭をやる的决心もしていなかったし、仕事も続けたいという思いもあり、「あと2年だけ待ってもらえませんか」と施設にお話ししましたが、この子にとっては小学校に上がる今が一番いい時期だということで他の養育家庭に預けられることになりました。その後もフレンドホームを続けて他のお子さんを預かってきましたが、最初のその子のことはずっと忘れられませんでした。その後養育家庭の申請をし、登録して今に至っています。

「女の子が希望なら何年も待つことがある」と言われ、フレンドホームも仕事も続けながらずっと待っていました。待っても待っても決まらず、だんだん気持ちが冷めていき、このまま仕事を続けながらフレンドホームだけを続けていこうかなど、いろいろ考えて、ちょっとつらい時期がありました。

その後、仕事を辞めて半年後に小学生の女の子と交流が始まり、私としては順調に交流ができていたと思っていました。うちに来るととてもうれしそうで、そのまま決まると思っていたのですが、二転三転して結局話は流れてしまいました。彼女は3歳で施設に入り6年間ずっと施設暮らしでした。彼女にとっては施設が完全に家庭のような居場所になっていて、そこから出ることは、自分がまた捨てられてよそに行かされるように感じ決心できなかったのです。うちに来ているときはとても楽しそうでしたが、いつも「自分のことは自分で決める」とはっきり言っていました。小さいうちから施設で暮らしていると期間が長くなればなるほど施設から出ることが難しくなるので、なるべく早いうちに里親のところで暮らせるよう考えてほしいと思いました。

その3か月後、今うちに来ている3歳の男の子T君の紹介があり、今度はとんとん拍子に話が進み、何か縁のようなものを感じました。最初に会った時から、すぐ寄って来て手もつないでくれましたし、まもなく長期外泊になって、散歩中など「おばちゃん、おばちゃん」と甘えて抱きついてきて、うれしそうに笑ってくれました。

でも、実際にうちに来てからはいろいろなことがありました。夜中に突然「おうち帰る」と起きて泣くことが毎晩のように続いていました。また、散歩の時は楽しそうに歌いながら帰ってくるのですが、家の前まで帰ってきて突然「おうち帰る、おうち帰る」、「バイバイする、バイバイする」と大泣きです。交流中、施設に帰る時に「ただいま」と言って帰っていたのを思い出し、もしかしたら彼の口から「ただいま」と言わせるようにすればいいかもしれないと、家に入る前に私から先に「おかえり」と言うようにしてみたのです。そうしたら「ただいま」と言ってスムーズに家に入ってくれました。本当にこの一言で解決しました。

委託後1ヶ月が過ぎた頃、1月ほど田舎に帰らなくてはならない用事ができ、どうしたものかと思いましたが、2歳の男の子を持つ姪が理解を示してくれたこともあって思いきって連れていきました。子供同士はうまくいったのですが、パパ、ママ、じじ、ばばなどと呼び合っている大家族の中で、だんだん姪たちのことをママとかパパとか言うようになってきたので、「Tのママじゃないよ、R君のママだよ」と言ったら、そこでまた大騒ぎが始まりました。「Tのママだ、Tのママだ。自分のママだ、自分のママだ」と寝っ転がって暴れます。「ママじゃない」と少しでも否定めいた言い方をすると、とたんに手がつけられないほど怒り出してしまいます。彼の中には、パパ、ママ、お父さん、お母さんという認識はまだ全くないようです。これまで若い男の人はお父さんやパパ、若い女の人はお母さんやママだったので、今、彼の頭の中はすごく混乱しているに違いないと思い、姪に対して、甘えて「抱っこ」をせがんでも、抱っこはしないように頼みました。そのうちに、今度は急に私のことを「Tのおばちゃん、Tのおばちゃん」と何度も呼んで甘えてくるようになりました。でもR君が姪に甘えているのを見ると、自分も寄って行き甘えていました。やはりパパやママが欲しいのだと思いました。彼にはつらい体験だったかもしれません。

まだ3か月ですが、彼が変わっていくのがよくわかります。大変なこともたくさんありますが、承知の上で始めたことなのであまり苦にはなりません。周りには、応援してくれる人がたくさんいて、「ストレスがたまったらいつでもつき合うよ」と言ってくれているので、疲れたら彼女たちの手を借りて続けていきたいと思っています。

この子たちにとって、今よりも措置解除になってからの方がはるかに大変です。目指すのは、子供たちの自立、一人で生きていけるように育てることだと思います。一人でも多くの子供たちに養育家庭という安定した居場所が与えられることを願っています。

7 子供を丸ごと受けとめることの難しさ

【里母】

初めに、私が里親になろうと思った理由についてお話します。当時「赤ちゃんポスト」が話題になっていました。生後間もない赤ちゃんが放置されたり、虐待を受けた子の怪我や死亡のニュースを毎日のように目にしていました。そして、映画「誰も知らない」が上映され、これも話題となりました。そのころ夫婦で何度か話し合い、「こうした子供たちに愛情を注いであげられる手立てはないものか、自分たちに何かできることはないか」と思い、里親の登録をしたのです。

私の体験発表は他の里親さんと違って失敗してしまった話です。長期で預かって欲しいと受託したのですが4ヶ月でギブアップしてしまった体験です。

登録後しばらくして幼稚園年長女兒を紹介されました。親から虐待を受けていたA子は親との連絡・面会もないため、私たちが親代わりとなれるよう交流を引き受けました。A子はとても大人に気を遣う子でしたので、もっとのびのびさせてあげたいと思いました。

交流は8ヶ月間に及び、夫婦で施設に面会に行ったり、動物園・水族館へ出かけたり、買い物やゲームも繰り返し一緒にしました。この間、A子の気持ちがだんだんとわかってきたように思いました。施設でのA子は職員たちと本当に楽しそうに生活しているようでした。そしてA子は私たちにフレンドホームのような存在を求めているようでした。

しかし、施設の職員は「家族の暖かさや家庭の味を教えて欲しい」と私たちに話し、気が進まないA子を説得し、我が家に来ることが決定したのです。その後、施設の幼稚園卒園式には私も参加し、ひとりひとり入学する小学校名を言う場面では、A子は我が家近くの小学校名をはっきりと言っていました。A子なりにいろいろ考え自分で覚悟したんだと思い、私もこのときA子を受け入れる覚悟を決めました。そして春休みになり、家族全員でA子を迎えに行き、我が家でのA子の生活が始まりました。

しかし、小学校入学までの2週間で、私はすでに疲れ果ててしまったのです。それは、A子にとって我が家にあるものすべてが珍しく、どんなものでも赤ちゃんと同じように触り、知恵も力もあるのでどんどん壊れていくのです。私が「それは危ないからダメ」と注意し、止めたと思っていたのですが、あとで気がつくとなんか違うのです。どこか壊れているのです。玄関に置いてあった印鑑用朱肉は、いつのまにか白い内壁に塗られていました。A子の様子は交流期間とは明らかに言葉や行動が違ってきました。

そして、小学校に入学し登校を開始すると、ますます手をやかせるようになり、朝の着替えはなかなかやらない、手伝おうとすると「イヤ」と拒否するのです。朝食もなかなか食べようとせず時間がかかり、やっと食べ終えた後はすぐに学校まで送っていく、これを毎日繰り返しました。このとき実子の高校生の三男もA子に一生懸命関わってくれ、寝る前に歌をうたってくれたり、絵本を読んでくれたりしました。さらに私の疲れている様子を見て家事

も手伝ってくれました。とにかくA子に振り回され疲れてしまいました。

そんな生活が続き、私が高熱を出し体調を崩すようになってしまいました。これまで病気もせず元気がとり得たのですが、今度ばかりは参りました。児童相談所や施設にも何度も相談しながら、なんとかA子とのよりよい関係を築きたかったのですが、関係がよくなることはありませんでした。「かわいいとは思えなくなってしまった」と児童相談所職員にも泣いて話したことを覚えています。そして、A子は施設に戻りました。

今考えると、どうしてあんなにイライラしてしまったのか、もっと優しい気持ちで接してあげていたら、A子の態度も違ったのかもしれない。A子の気持ちに本当に寄り添ってあげることができなかった私は、自分がなんて愛のない人間だろうと思い、里親になれると思っていたことが、本当に思い上がっていたのだと反省しました。今でもA子に申し訳ないという気持ちでいっぱいです。

その後は落ち込んで、「次の委託の話はもうないだろうな」と思っていました。が、まもなく一時保護委託の話がありました。小学校1年の男児で、母子家庭のお母さんが手術のため2週間だけ預かって欲しいとのことでした。私は少し躊躇しました。「また上手くいかなかったらどうしよう」と思い悩みました。でも、我が家からなら通学は継続できることを聞き承諾しました。その子はとてもはっきりした物言いで、素直に自分の気持ちを伝えてくれ、自然に我が家になじんでいました。生活習慣もしっかり身についている子でした。なんだか親戚の子が遊びに来ているような感じで2週間はあっという間に過ぎてしまい、無事お母さんの退院時に帰宅しました。

この2つの養育体験から、親から虐待を受けた子供に対する認識が自分自身いかに甘かったかということを痛感しました。私はこれまでホームステイの受け入れやファミリーサポートの受け入れを経験してきましたが、どのお子さんも親から愛され受け入れられている子供たちばかりでした。私は今回の失敗で子供の見方を固定化していたことに気づかされたのです。そして、親から全く受け入れられず愛されずに育った子供は、私の思っていた固定観念の全てを捨てて、丸ごと受けとめてあげることがとても大切だということを実感しました。

今後、次のお子さんとの出会いがあれば、その子を丸ごと受け止めきちんと向き合っていけるよう努力したいと思っています。



8 短期でお子さんをお預かりして

【里母】

私の家族は、主人、長男 25 歳と長女 23 歳の 4 人です。主に短期を専門に登録しています。里親申請のきっかけは、実子が成人し手が離れた時、長女が通っていた幼稚園に児童を通わせていた養護施設を思い出しました。親子共々交流があり、施設の子供達が初対面で私のひざを離れず、抱っこを要求されることは、うれしい反面、少々違和感もありました。初めて見る施設はずっと頭の中に残り、新聞記事で里親を知り児童相談所へ連絡をして話だけでも聞いてみようと思いました。話を聞いている時、責任重大だと心配にもなりましたが、短期里親を知り、第一歩と思い登録しました。家族は皆、簡単に了解し、始めることになりました。登録後、子供のお話は何度かありましたが、実際に委託されたのは 1 年 3 カ月ぐらい経った頃に、初めて子供を預かる機会が来ました。

最初は 2 歳の女兒を約 1 ヶ月半お預かりしました。頭の回転が速く賢く、言語力と理解力があり、自己主張もする気が強いお子さんでした。気分は浮き沈みが激しく、すぐ気分が変わります。我が家に来て 3 日位は気が張っていて頑張っていました。段々我がままや意思を通す強い面が出てきました。驚いたのは、普通の夜泣きとは違い、夜中に何時間も泣き叫ぶ夜叫びです。毎晩 2、3 時間激しく泣き叫ぶことが帰る直前まで続きました。しかし、夜中に「これは夢だよ、大丈夫」と言い続けることで落ち着きました。また、日中も『不安』が強く、突然火がついたように泣き始めます。虐待を受けているのかと周りが振り返る位でしたが、触れられることを嫌がるので、私は落ち着くまで待つしかありませんでした。また、この子は私の前では『ママ』と言ってはいけないうと気遣いをする子供でしたし、大人が内緒話で話しをしても驚くくらい大人の会話を聞いている敏感なお子さんでした。

次は、4 歳と 2 歳の姉妹二人。第 3 子の出産のためお預かりしました。1 度母子と面会をし、出産予定日の頃預かる約束でしたが、破水して、突然朝連絡があり、その 2 時間後、おむつ等の準備もしていない我が家に来ました。妹は絵に描いたような天真爛漫な可愛いお子さんで、食べることが大好きな食いしん坊さん。反対にお姉ちゃんの方は、最初妹思いの優しいお子さんでしたが、次第に妹への意地悪が始まり、影で妹を殴ったこともあったようです。また、わざと周囲にいる人を嫌な気分にする言動もあり、その時「可愛くないな」と感じましたが、わざわざ嫌われるようなことを言うお姉ちゃんに対して、嫌な思いをさせられながらも、可哀想になるお子さんでした。さらに、自分の思いどおりにならないと自分の頭を叩いてヒステリーのように泣き出すことが、場所を問わず始まります。周りは奇異な目で見ますが「さわらないで」と言うお姉ちゃんが辞めるまで待つことも多々ありました。一応、児童相談所に報告はしていましたが、実親さんは、「絶対に信じられない」と言われました。ただ、実父母のいさかいをずっと見てきたお姉ちゃんは、4 歳ながらもお母さんの盾になり頑張ってきたお子さんでしたので、うちに来て爆発したようでした。お父さんのことはお母さんから言われて理解はしているようでしたが、私に、お父さんに怖い思いをさせられた時の話や、シュークリームをお土産に買ってきてくれたことなどを話し、懐かしそうに食べる姿には思わず涙が出て、時に暴力をふるうお父さんでも彼女にとって大事な人であ

ることが感じられました。

その他4～5件程委託にまで至らないお話がありましたが、どの話も急を要しており、委託になった際は家に来るまで短時間に決まるので、対応を一気に迫られるのが、短期の里親の難しい点です。また、委託後の1カ月は、双方様子を見ながら調整をする期間ですが、短期は常に変な時期の繰り返しだと思います。里親の方も自分のやり方があり、子供の方も自分達の暮らし方があり、生活習慣の折り合いのつけ方が難しいこともあります。長期であればだんだん歩み寄り合わせていけますが、短期は、いずれ家庭に帰る子供を我が家に合わせる事への迷いがありました。お菓子を1つ買うのにしても、どうしたらいいか解らないまま終わることもありました。また、ゲームが好きな子供は、うちに来た時、犬の話を良くしていましたが、実はコンピュータの中の犬の話だったので驚きました。その後、ゲームは持っていないようお願いし、外遊びやごっこ遊び、おままごとや絵本など年齢に相応な遊びをなるべくするようにしました。

本来は実親さんと里親は実際に会わないことが前提ですが、実親さんと、どうしても会わざるを得ないような場面があり、実親さんとの関係は難しかったです。

我が家の家族の反応は、長女は妹ができ大喜びでした。最初のお子さんをよく面倒を見ましたが、次の姉妹が来た時、長女は社会人1年目ということもあり悪ふざけの多い姉妹との関係は大変激しいものがあり、最初のお子さんとは違う対応になりました。間に入った私達も戸惑って見ていましたが、実子に対しても良い勉強だと思いました。

受託することは問題が次々に出てきて疲れる事もありますが、同じ区内の里親さん同士で話を聞いてもらい助けられ、また頑張ろうという気持ちにさせてもらいました。

大変なことばかりではありません。最初の子は一生懸命手紙を書いて「お母さんにお手紙を書いているの」と言うので、私は実親のことだと思い「それは喜ぶね」と言うと「もう、お母さんはあっちゃんでしょう」と言われました。翌日帰ることが決まっていて、手離したくない気持ちで胸が押しつぶされる思いでしたが、子供が私を母親として認めてくれた嬉しい一言でした。また、姉妹も、最初は4歳のお姉ちゃんは私との間に壁を感じていましたが、最後には、近くの子供園の1日保育に週1回通っていた時、迎えに行くと、先生に「今日1日笑わなかったけれど、ママが来て笑ったね」と言われました。この子なりに、私を一応母親役として認めてくれたことが伝わり、うれしい瞬間でした。下の妹は、来てすぐに私をママだと思い慕ってくれ、実母さんの迎えの時も、私にくっついていました。子供たちが帰る頃になると、可愛くなり離したくない寂しい気持ちと、親元に帰れて安堵する気持ちがありました。

短期間の中で自分なりにやれた充実感と、反対に力不足も感じますが、子供たちの人生で、精神的に安定できる家庭の中で育ててもらいたいと願う気持ちで手放します。私は短期専門で、長期の方とは多少感情的に違うかもしれませんが、子供が体だけではなくて、心の健康を保てるように、一瞬だけでも違う家庭を見ることが出来る機会があるというのは、「その子の人生にとって後々違いが出るのではないか」というかすかな期待を持ってこれからも短期のお子さんを育てたいと思います。

9 子供との交流から学んだこと

【里父】

私が里親になろうと思ったきっかけは、地元の区で開催された体験発表会に行ったことです。その他何度か行った体験発表会では、子供を預かって苦労したこと、子育ての喜びや素晴らしさ、子供が巣立っていく感動など良い話ばかりでした。今日は私の（里親に）なれなかった話もお伝えしたいと思います。

最初は、『自分たちでもできるのかな』程度の気持ちでした。しかし、児童相談所の話を聞いているうちに、里親になりたくなった3つのポイントがありました。1つ目は、地元の区に里親がいないことです。2つ目は、里親に登録できるのは65歳未満で、その時私は63歳でした。また、この頃NHKで「瞳」というドラマを放映しており、里親をやって下さいという思いを感じたこと。3つ目は、家族でファミリーサポートを1年半経験していたことです。自分の世話好きで面倒見が良いところ、子供に好かれるところには自信があり、今までも知人の子を預かったりしていました。どなたでも一定の要件を満たせば登録することができます。子供とうまくやっていけるかは、次の問題なので是非手を挙げてみてください。

最初の面会は、5歳の女の子でした。この子のために、10人の関係者が動くことに大変なことなんだなと真剣な気分になりました。初めて会った日から「お父ちゃん」と言って飛んでくるので、少しおやつと思いました。1時間くらい施設で抱っこをしたり、お話をしたりして過ごし、帰るときには非常に悩みましたが、家内が交流に迷っていたのと、児童相談所の人に「無理じゃなくていいですよ」と言われたこともあり、勇気を出して破談にしてもらいました。

その後、2人目の可愛すぎるくらいの2歳半の女の子の紹介がありました。交流が始まり、施設に出向いて1～2時間、折り紙を一緒にやったり、お絵かきをしたり、ブランコに乗ったりという交流を6回程しました。その間に食事の介助や、オムツの取り替え方も習いました。2ヶ月目も同じように交流し、3ヶ月目に入るときに、初めて自宅に来ました。3ヶ月目の後半になると、面会前に「お父ちゃんに会える」と興奮し、また面会後は、「お父ちゃんとお母ちゃんの話をして」と保育士さんが言っていました。そんな中、信じられないのは一度も目を合わせてくれないことでした。私達がよそ見をしている時に視線を感じてはいました。なかなか心を開かない子だと感じました。4ヶ月目に入ると、今度は突然まばたきもせず、じっと見つめます。しゃべりもせず、まばたきもしません。その途端に、突然歌を歌い始めました。私も一緒になって歌いました。すると今度は大泣きが始まりました。笑う、歌う、泣くと自分の嫌なところも見せてくれるようになり、ようやく心を開いたのかな、わがままを表せるようになったのかなと思いました。

4ヶ月目の半ばに打合わせをして交流の時間を長くすることになり、半日→1日→できればお泊りという話になりました。交流は、保育士さんが一緒にないと行動できませんが、「一

番好きなのは誰？」と保育士さんが聞くと「お父ちゃんとお母ちゃん」と言っていたようです。4ヶ月目の後半、車で外出し、歩きたくないという態度をしたとき、保育士さんが「抱っこしてあげてください」と言いました。はじめは躊躇していましたが「大丈夫です」と促され、初めて抱っこができました。

5ヶ月目に入り、2回ほど自宅で1日交流をし、非常に楽しい時間を過ごすことができました。ただ、「必ず今日は帰れる」という安心感からうまくいっていただけでした。5ヶ月目の半ば、外泊開始になりましたが、駅で私達のところに来ようとせず、突っ張って帰りがる姿を見て、本人が理解し納得していない様子を感じて、絶対危ないなと思いました。自宅に来て、今まで入った家に入りたがらず、2歳児なので抱っこして無理に家に入れてしまったのが外泊の始まりでした。

夕方になると、帽子をかぶり、洋服を着て、持ってきたもの全てをリュックに詰めて、靴を履いて玄関に立っています。「あなたはここの子供になったんだよ。帰らなくていいんだよ。」と言っても伝わりません。相談すると「1週間様子をみてください。最初はみんなそうです。」と言われましたが、1週間経つと、更に別の行動が始まりました。お風呂に絶対入らない、食事を一緒に食べない、オムツを絶対に替えさせない、私達が用意した布団では寝ない、施設から持ってきたおいのついたバスタオルと枕だけで、大広間で1人で寝ます。鼻歌を歌い、ご機嫌にみえましたが、おそらく怖いから歌っていたのだと思います。その後も、物を壊したり、悪さも始まりました。「試し行動」とは言われていましたが、「えらくキツイな」と思いました。

そんなわけで、結論としては、最初は何とかなしよう、丸め込んでなだめておこうと思っていましたが、2週間続けたら、2人ともくたくたになってしまいました。数時間預かるファミリーサポートと24時間の里親は全く違いました。夜中に『ちゃんと寝ているだろうか。寒くないだろうか』と見に行くことも続き、そのうち妻は食欲がなくなり、私は血圧が上がってしまいました。もっと辛い経験も人生でしてきたのに、2歳の子供の養育で体調を崩してしまうなんて、非常にがっかりしました。そして、我々がつらいのと同じように、この子はもっと闘っているんじゃないかと感じ、児童相談所に電話をして施設にお返しすることにしました。2週間も一緒にいたのに、施設についてドアを開けた瞬間、振り返りもせず、「タッタッタ」と中に入っていく姿を見たときは本当に悲しかったです。苦しみから解放され自由になったという感じです。間もなく、交流中止の連絡をもらいましたが、我々としては納得できず、一旦間を置いて2～3年後にもう一度見させてほしいと思いました。

しかし、今思うと、やはりその子と過ごした2週間は心に残っております。その子の立場になって仕方ないかと思うようにしましたが、今でも何とか幸せにしてあげたかったなと思っている状況です。

10 育てることで自分も育つ

【里父】

私は、受託した中学1年の女子でSちゃんについて話をしたいと思います。Sちゃんの父親は日本人ですが、母親が東南アジア系の方でした。Sちゃんは良い子なのですが、自閉症に近い非常に難しいお子さんでした。性格が暗く、これは弱ったなと思いました。そこで妻と相談し、誕生日のお祝いなどを盛大にやったり、妻がSちゃんといつも一緒にお風呂に入るなど、まずスキンシップを図ることから始めました。ただ、母親が日本人ではないので、お風呂等習慣が違います。最初は戸惑いました。また、親戚とはSちゃんを連れて積極的に行き来し、隣近所にも積極的に付き合いをしました。

Sちゃんは、4～5年間登校していなかったということなので学校に行って校長と話をしました。学校は、難しい子はちょっと預かりたくないというようなことを言いましたが、私の妻は都立高校、中学校で自閉症児の担任を経験していますから、「それはおかしいのではないか、『万人は一人のために、一人は万人のために』という言葉があるじゃないですか」ということで食い下がりました。

また、面接のため中学校へ連れていく場合でも、私と妻がSちゃんを間に挟んで出かけて行きますが、学校の近くまで行くと1人だけ後ずさりしてしまいます。「どうしたの、今日は行きたくない?」、そんなことを何回も繰り返し、やっと学校に行きました。学校の方では特殊学級に入りたいとのことでした。その特殊学級というのは1学年5～6人で、中には本格的な自閉症児みたいな子もいて、雨の中でも飛び出して走り回る子や、泣き出す子、風が吹くから学校に行かない子など、いろいろな子がいました。

中学校は、皆さんもご承知のように義務教育ですから、勉強ができてできなくても、3年間学校に行けばとろてんみたいに押し出されます。単位制ではないんです。ですから、私と妻は毎日交代で学校に行き、教室の後ろに座って授業の参観をしました。Sちゃんには、高校へ進学し、学校の教員や看護師になって、自立できる人になってほしいという思いからでした。半年間位これ続けました。雨の日は私の車で送り迎えをしました。

そのうち本人もだんだん、このおじさん、お婆さんは大丈夫だとわかったのでしょう。ぽつりぽつりと自分のことを話し出しまして、人は何で生きるんだろうとか、そういった哲学的な問題をどんどん言うようになりました。また、我々も自分の子と同じように、芳しくないときは真剣に怒りました。

勉強は、妻と私が交代で1日3時間、学校の授業以外にやりました。また、夏休みには水泳ができないので、周辺市の学校開放日に妻と私と3人で毎日プールに行きました。7月の初めには全然顔を水につけられなかったのが、9月の初めには平泳ぎで100メートル、クロールで50メートル、背泳ぎでも50メートル泳ぐようになりまして、だんだん本人も明るくなりました。自信を持ってきたのでしょう。私の住む市では、学期末のテストは本校と

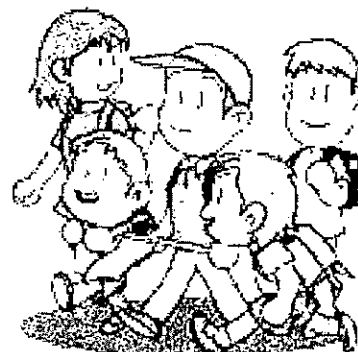
同じテストをするのですが、少数、分数、掛け算の九九から再教育しましたから、何と前期の学期末は3番でした。数学3番、英語は4番、国語、理科が4番で、社会がちょっと落ちますが6番か7番でした。特に歴史が弱かったです。そこで、旅行にもどんどん連れて行くようにしました。

また、ピアノも東京芸大出身の先生に習わせたのですが、同じ歳の子は皆かなり難しいところにいるけれども、本人はバイエルの基礎から始めました。ですから、担当の児童福祉司さんには、ピアノなんかやりたくないと言いたようですけども、すぐ追いつくよと励まして、暮れには先生と連弾をやるまでになりました。

旅行も、京都へ行けば京都の歴史、奈良の歴史、犬山城の歴史、桜の頃になると、松平忠輝が流された高遠城へ連れて行って、いわれから落城の話をしたら、「おじさん、社会っておもしろいね」と言うようになりました。どんどん慣れてきて、12月末には家族風呂に入るようになって、心を許してきたんだなと思いました。1年で成績がぐんと伸び、水泳も伸びて、明るくなりました。また、私自身もごみ出しも妻に「おまえやれよ」と言っていたのが、率先してやるようになりました。「Sちゃんもちょっと手伝って」と中へ巻き込んでいきました。非常によい子になりました。

そういうことで、ぜひ皆さんにも1人でも2人でも、『一人は万人のために、万人は一人のために』ということで、一人でも多くの子供が、大人として自立する手助けを担っていただければありがたいと思います。また、養育家庭の皆さんの心情も理解していただいて、今後ともご協力をお願いしたいと思います。

私は、この1年間で非常に成長させていただきました。妻が今年の初めにがんになり、現在、化学療法で療養しています。大分良くなってきたので、来年4月からまた、子供を預かって面倒を見たいと思っています。面倒を見るというより、見させてもらうというか非常に楽しみです。育てることで自分も育つ、それで人生が豊かになると思います。私の子供たちも自分の妹のようにかわいがってくれました。皆さんもそういう子がいましたらひとつ今後力になっていただければ幸いです。



11 旅立つ娘に、今伝えたいこと

【里母】

暮れも押し迫り、「今年はもうお話はないかな」と思っていた頃、待っていた電話が来ました。待ち焦がれていた私は、一も二もなく「お受けします」と言うつもりでしたが、児童相談所の方の次の言葉に、返事がとまってしまいました。

「8歳の女の子、5歳の男の子、1歳半の男の子、3人兄弟で、できれば3人一緒に1週間の短期委託でお願いしたいんですが…」

強烈な里親デビューでしたが、3兄弟のおかげでとりあえず児童、幼児、乳児がいる生活とはどのようなものか大体イメージがつかめました。この里子初体験の反省をふまえ、経験不足はせめて知識だけでも補おうと育児書を読んだり、乳幼児研修を受けたりしました。大分赤ちゃんのことがわかってきて、いつ紹介されてももうオロオロしないぞと思った頃、紹介されたのは高校1年生の女の子でした。乳幼児研修から一転「巣立ちに向けて」という自立する子を持つ里親対象の研修を受講しました。

初めて会った娘は、病気がちな母親に代わって家事をしたり、弟の面倒をみてきたそうですが、母親との不和が原因で家を出たいと希望したそうです。娘は毎朝6時に起床、7時に登校、帰宅後すぐに勉強、夜更かしはしません。試験中は朝3時に起きて勉強しているし、お箸は家族の中で一番正しく持ってきれいに使いこなし、正しい、美しい敬語で話します。文句のつけようがありません。けれど、私にはその完璧なまでのいい子さが、不安でたまりませんでした。

娘の行動で理解に苦しんだのは、洋服のことでした。娘が来て初めての休日、朝起きると、家から持ってきた洋服を着て机に向かっていたんですが、それがものすごくおしゃれ着だったので、「出かけるの？」と聞くと、「どこにも行かない」と言うんです。用意しておいた部屋着じゃ気に入らなかったのかなと思って、一緒に買いに行って、自分で選んでもらいました。ところが、次の日も今度は違うおしゃれ着を着ているんです。翌日、そのおしゃれ着を洗うと、たばこ臭く「ついに来たか！」と思いました。娘は喘息があるようなので、自分では吸っている様子はないんですが、周りでたばこを吸っているような場所に出入りしているかもしれないし、あんな大人っぽい格好でどこに行っているんだろうと、すごく心配になりました。かといって、変に問い詰めても心を閉ざしてしまいそうで、とりあえずもう少し様子を見ることにしました。

どうしたものかなと思っていた頃、児童相談所からの電話が入り、実母さんからの伝言が伝えられました。「・・・以上のような洋服、荷物にまぎれていませんか？お母さんの洋服を持っていつているようで、返してほしいと言ってきているんですが」

その洋服の特徴を聞いているうち、私は涙が出てきました。まぎれているも何も、その洋服だけしか持って来ていないのです。お母さんがたばこを吸う方だと聞き、たばこ臭かった

のも領けました。かわいそうでしたが、伝言どおり伝えと、「私に買ってくれたものもあるけど、そう言うならそうなんでしょうね。分かりました。明日全部返してきます」と平気そうな顔をしましたが、「今度洋服いっぱい買いに行こうね」と言うと、ポロポロ涙を流しました。持ってきた娘の衣類は、制服とパジャマと下着が2枚ずつ、それだけになりました。お母さんの洋服だけを持ってきて、むきになって着まくって、洗濯かごに放り込んだ娘の心を思うと、これからしっかり寄り添っていかなければと思いました。

娘は、大丈夫じゃなくてもいつも「大丈夫です」と言い、無茶して肝心な時にダウンします。娘はひどい虐待を受けていたわけではありませんが、母親が病弱で、弟の面倒をみなければならず、具合が悪くても言えなかったり、言ったとしても介抱してもらえなかったりという状況から、どんどん我慢強くなり、痛み鈍感になってしまったのかもしれませんが。また、初めからどこか全てにおいて諦めているようなところもあり、進路を決める時期になってもどこか覇気がなく、何もかも人ごとで、気に入っていません。どうやら弟のことが心に引っかかっているようでした。自分は思い切って飛び出してきてしまったけれども、すべてを弟に押し付けてしまった罪悪感、後ろめたさで苦しんでいたようです。その様子を知った私の姉が、娘あてにこんなメールをくれました。

「今、あなたがすべきことは、弟にご飯を作ることじゃない。将来、弟が頼ってきた時、力になれる強い姉になること。まずは、自分が1人で立たなきゃ、泣いている場合じゃないよ！」

メールを読んだ娘は泣きながら「すごくよくわかりました」と言い、何か吹っ切れた表情になりました。その昔、大きな家出をし、意地を張って生きてきた姉だからこそ言えた言葉で、その時の娘に一番必要な言葉だったようでした。娘の目に力が出てきました。早く自立したいと、就職活動に入り、今年はかなり厳しい状況でしたが、おかげさまで先日内定通知をいただき、ほっとしたところです。

あと半年で、娘は我が家から卒業します。娘には、『あなたのことを心配している人間がいること、心配されるに値するその命を大切に生きてほしいこと』、これだけは伝えたいと思っています。「困ったときはいつでもおいで」と送り出せたらと今思っています。

この発表を通し、改めて多くの方々に助けられ、里親をやらせていただいていると感じました。これからも周りを巻き込みながら続けさせていただきたいと思っています。つたない体験談をお聞きいただき、ありがとうございました。



12 施設も里親も長い目で

【里母】

私の経歴を申しますと、短大の実習に行った先の園長と子供にも惚れてしまって、その施設で就職させてもらうことになり、38年間その施設で過ごしました。

その施設には、その後、養育家庭の支援事業をする養育家庭センターができ、私が養育家庭のワーカーをやっていた時期がありました。その経験から、里親さんで育つ子供は、もちろん途中でいろいろ大変なことがあります、1対1の関係とか大人を信頼する気持ちがすごく植えつけられてると感じて、私の子供を育てる仕事の最終的な仕事はこれだなと、退職したら養育家庭をやろうと考えていました。

養育家庭に登録した年の12月、小学校5年の男の子の話がありました。その子は、一時保護所からという制約もあって、「本人の希望と合わなければ委託は難しいから」と、年末年始に、あわただしく急な面会や外泊となりました。外泊後2、3日で、「おれ、おばさんちにいてもいいよ」ということで委託となりました。短期間の予定でしたが、6年生を卒業するまで1年3カ月ほど一緒に生活をしました。

その子は、不登校があったので、学校に行くかなとすごく心配していたんです。でも幸い、私は、勤め先や住まいの関係で、担任の先生とは顔なじみでした。顔合わせのときに担任の先生が、「学校に来られなかったら僕が迎えに行くから」と子供の前で言ってくれたんです。たとえそれが現実にならなかったとしても、子供の前でそういうことを言ってくれるのがすごくうれしくて、頑張る力が湧いたんです。

けれどやっぱり学校はなかなか素直には行けなくて、学校に行く時間になると押し入れに隠れたり、ベランダに隠れたりしましたが、私は施設で鍛えられていることもあり「学校は行かなくちゃだめなんだ」と強引に行かせて、結局、先生に一度も迎えに来ていただくことはありませんでした。でも、その子はやっぱり落ち着きませんでした。テレビを見ていても子グマが動き回っているみたいにうろろしたり、手当たり次第に物を投げたり、犬のひげを切ってしまったりするんです。私も腹が立って、年齢も高かったので、「あなたは選んで私のところに来たんでしょう。私は楽しい生活をしたいからあなたと一緒に暮らしているので、楽しい生活ができないんだったら、選んだことをもう1回考え直してちょうだい」みたいなことを言って迫ったこともあったんです。全体的に自信がない子でしたが、運動会のあるときに係の仕事や組み体操を実際にやってみたらすごくうまくいったんです。それが自信になってお友達もでき、6年生になってからは我が家に毎日5～6人の子供が遊びに集まってきて、高学年の学童保育状態でした。その子は、勉強はできるお子さんだったので、最後の卒業文集には、「おじいさんがお医者さんだったので、僕はお医者さんになりたい」と書いて、先生も、「ここまで成長したね」とすごく喜んでくださいました。

2人目の子は縁のある子で、お母さんが私の施設にいて、お母さんも精神的な浮き沈みの

すごく激しい方だったんですが、その子も気分のむらや浮き沈み、感情の爆発もありました。私が養育家庭のワーカーをやっているときに1回養育家庭に預けたんですが、1年ほどたって突然に施設でみることになったんです。里親になってから、私は年の小さい子を受けたいと思っていたんですが、学園の要望もあって、中学3年生になるときに我が家にきて1年半になります。

委託になってから、本人も楽しくやってきていたんですが、本当に周りの状況が見られないというところがあって、望みは高いが努力をしない。高校は入学式から遅刻。通学も1日目から遅刻。1学期はほとんどともに学校に行くことがなくて、吹奏楽部のためだけに行っているみたいで、夏休みに先生から、「この調子だとだめだから、退学届を出せ」と言われて、やっと2学期の始めからはともに学校に行くようになったんですけども、2学期の中間テストをし、部活が終わった途端にまた遅刻が始まって、学校にも行かなくなりました。

枠がないと、自分で自制して考えてやるということがなかなか難しい子で、施設の大人の目と子供の目があって今までの生活が保てていたのが、施設にいるという飢餓感から、家庭に行ったら思うことができるんじゃないかと思い、それが今爆発をしているのかなと思っています。うちで里親の目だけでは、なかなか学校に行かせられるだけの力にならないということであるならば、施設に戻すことも考えざるを得ないのかなと今悩んでいるところです。

養育家庭に行った子のなかには、一度学園に戻ってきた子供が、再度同じ里親さんに委託されたとか、一時期里親さんとトラブルになったケースも年月が経ち、再度里親さんと交流するということがあります。結婚して子供が生まれて、おじいちゃんになった里親さんの面倒を見ているようなケースもあるんです。だから、里親さんが大変なときには、一時休んでもらって、また違う形で頑張ってもらうなど、長い目でみて子供にとってどうなのかということで皆が考えていくと、もう少しいろいろな形でいい方向が見えてくるかなと思います。

だから、そのためにはどういうことができるのか考えたときに、大変なことがあったとしても、夫婦や子供がお互いに愛情を持って毎日を暮らす、普通の家庭生活なり社会生活なりを目に見せて経験させてあげることが子供たちにとって一番大切なことじゃないかなと思うんです。

そういうことで、ぜひぜひ周りの皆さんにはいろいろな形で協力をしていただき、子供たちの状況も理解していただきながら、力になっていただくことも大切だと思います。



13 「癒し」を感じてくれたら

【里母】

私が里親になったきっかけは、子供が好きということが根本にあります。子供を大勢育てられたら楽しみも沢山あると思ったからです。また、毎日のように子供の虐待問題が報道され、それを見て何か助ける方法はないかと私なりに心を痛めていました。そんな時、友達から養育家庭制度の話聞き、少しでもお役に立てればと思って里親になりました。

現在、里親になって3年目ですが、最初、数日間小さいお子さんを2度ほどお預かりした後、中学2年のK君を受託しました。当時、長女がまだ7歳でしたから中学2年の男子の状況が私には良く解らず、ただK君を今までどおり学校に通える体制をつくってあげたいという思いで簡単にお預かりしました。K君は、おとなしく心も優しいのですが友達にすぐ流されやすく、友達が何かするとそれが自分の行動の規範となって親が何を言っても、友達がこう言ったということでそっちに流されてしまいます。

K君を見ていると彼の問題性は、親の虐待よりも過保護にあったように私には感じられたので、時には厳しく対応したこともあります。K君は、自分が何かを間違ったとき「これは違うよ」と言うとき謝るのではなく、何としてでも自分を正当化しようとします。例えば門限です。最初は、午後6時にしていたのですが「6時では早すぎて友達と一緒に遊べない」と言うので責任を持って守るなら、試しに本人が希望する10時まで許したことがありました。しかし、10時になっても連絡せず、11時頃帰って来て「ご飯ください」となります。ご飯を作りながら「次からは電話してね」と言うとき「はい」と言いますが、また同じことが繰り返されます。そこでまた門限を6時に戻すと言うとき大暴れし、「門限を6時にするなら自分は死ぬ」と脅します。「門限を決めるのは、あなたを守るためなの」と言っても悪くしか受け取りません。

電話も同じで、通話は1回10分以内で切るように言っても、子機を自分の部屋に持って行き長電話をします。携帯を貸してあげても同じで、約束を守れません。

でも、そんなK君もうちの子供たちとすごく仲がいいんです。私に怒られると子供たちがK君のところに行って、「お兄ちゃん、大丈夫？大丈夫？ママね、怒っていてもお兄ちゃんがこれやってちょうだいと言ったら全部やってくれるんだから、心配しないでね」と言っています。そうした中で自分は不幸ではないこと、そして周りに感謝する気持ちを起こしてもらうためにいろいろ工夫してみましたが、受託した期間が短かったのかうまくいきませんでした。

K君の後、高2の女子を受け入れました。最初に来た時は明るくて、学校から帰って来ると暫く皆とテレビを見てよく笑い、話をしている時も大人しく返事もよい子でした。

しかし、お風呂に入るとお湯を出しっぱなしにします。「使わないときは、お湯の栓を締めてね」と注意するのですが、最初は、「はい」と言って締めるのですが続かないんです。

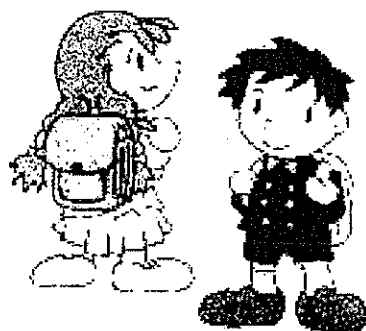
自分で気づくまで待つてあげるのも大事ななと思ひしばらくそのままにしておいたんですが、3～4カ月して、また「あなたはお風呂でお湯を出しっぱなしだけど、栓を締めたり開けたりすることはできないの？」と聞いてみました。すると「できます」と気持ちよく返事をするので、強く説得しようにもできません。出来るようになるまでにはちょっと時間がかかるなと思いました。

もうひとつ彼女に声をかけているのは自分の部屋の掃除です。一度、掃除をするため彼女の部屋に入ってみると、ほこりと髪の毛が綿のようになっていました。衛生的にも悪いので「掃除をきれいにして、ごみも捨ててね」と言いました。普通の家庭で育った子供ならそんなことを言わなくても解るのですが、彼女の場合はきちんと躰けられなかったのだと思います。また、「今日はごみの日だからごみを出してね」と言うと、その時は持って来ますが、言わないと相変わらず部屋はごみだらけになっています。そういうところがまだ自立していません。K君は怒ると掃除機をかけてくれましたが、彼女は返事をするものの掃除機をかけるのを見たことはありません。でも、放っておけないので彼女が学校に行った後、私が掃除をしています。

こうしたことができない原因を私も真剣に考えました。K君のときは、怒ってでも彼にやらせることができましたが、彼女には怒れません。ちょっと怒ると彼女はすぐパニックになってしまうからです。だから絶対怒らずに、これはこうしたほうがいいよという言い方をしています。最近、来た時と違い会話も少なくなっています。洗濯物を子供達がお姉ちゃんの部屋に持って行って「お姉ちゃん、これを持ってきたよ」と言っても返事ありません。ご飯も黙って食べるのでうちの小さい子供が「お姉ちゃん、おいしい？」と聞きますが「うん、おいしいよ」くらいの返事しかありません。

なぜそうなったかというのは、やっぱり心の中に誰もさわれない、自分にもわからない傷があるのかなと感じています。その傷が、私たちの家庭に来て少しでも癒されて、後で社会に出た時に、あの家で自分は本当に休めたという思い出が残れば、他に何も望みません。今は学校にも毎日行っていますし、バイトもしてごく普通の生活をしています。

今後、私は、小さい子を2人ぐらいわが家の仲間に迎え一緒に成長できるようになったらいいなと思っています。私は楽しんで養育家庭をやっています。



14 不安を乗り越えて

【里父】

10年前に母が亡くなり、部屋が幾つか空いて、ガランとした家に女房と2人である翌年に、三宅島の噴火がありました。突然住む家を失った子供たちの映像に大分熟くなり、その三宅島の子供たちを助けようということではないですけど、行き場を失った子供たちを何とかしたいということで、里親登録に踏み切りました。面接や研修を受けて認定書をいただき、そんなに遠くない時に声がかかるのかと思っていたら、1年たっても何の音さたもなく、あの時のホットな情熱もだんだん薄れかけていた頃、電話をいただきました。私達の受け入れ条件に国籍や肌の色は問わないということがあったので、その子は中学2年生の女の子で、日本人ではありませんでした。一時保護所に預けられているというので、ちょっと暗いトラブっている子で、これはなかなか大変かもしれないと大分覚悟をして行きましたが、面会を試みるとすごく明るい女の子で、はきはきとしていて、あまりの予想の違いに、その後すぐ「ぜひお受けしたい」と言ってしまったんです。「これから学校はどうするんだろう？」「勉強の継続性をちゃんとつくっていかないとかならないから・・・」と彼女がもう来てくれるつもりで、だんだん逞しくなっていく想像を抑えながら、しかし来るか来ないは半々位だからと、大分気を沈めて帰ったんです。そうしたら、翌日早速「本人が、ぜひ行きたいと言っている」と電話がありました。「できたらすぐに引き取りに来ていただけないか」と、1年以上ぶりに紹介していただいて、たった4～5日間の出来事でした。

彼女は生まれたばかりで両親が離婚し、9歳の時に日本に来て実母が再婚。またしばらくして離婚し、もう一度日本人と再婚をした時に虐待があり、1人で警察に逃げ込んで保護されました。また本名は非常に長い名前で、それを使ったらとてもじゃないけれど大変で、不安の塊みたいな状態で小さなボストンバックに身1つで来た彼女に向かって「非常に残酷だとは思ったけれど一恐る恐る、「君、生まれた国の学校では何て呼ばれてたの？」と聞いたんです。そしたら、「M」って小さな声で答えました。親しんでいた名前だったので、「これからMちゃんって呼ぶけど、いい？」と聞いたら、緊張した顔にちょっと白い歯だけがこぼれて、何とか受けてくれそうだなという感じがしました。新しい生活が始まり、彼女の日本語がどうもちょっとおかしいんじゃないか、と思うことがありました。夜、月を見て、「きれいなマンツキ（満月）」って。本を読ませると、「ビルがハヤシダテ（林立）」、「ウシロオシ（後押し）」。これはいかん、何とかしなきゃ、と夕食を女房が準備してくれる時間、「Mちゃん、日本語の勉強を絶対にするからね」と、新聞の易しいコラムを幾つか引っ張り出してそれを声に出して読ませ、これを1年以上続けました。そういう生活の中で、初めのうちは緊張の塊のようだった彼女も、食卓で何でも雑談を言えるようになり、これは心を通わせるいいチャンスだと、不満はないか、あれもしたら、これもしたらと、親切のオファーを繰り返しました。ところが、そういうことをしていくうちに、せっかく喋り出して

いた彼女の方がだんだん寡黙になってきて、せつかく心の通う対話を試みようとして懸命になっていたにも関わらず、どんどん心が遠ざかっていき、これは反抗期のこともあるのかと、知り合いに相談しました。その人は「子供なんて与えて、与えて、そして与えて終わりよ。あと見返りなんか期待したら絶対にだめ」と、真剣な顔で私に言ってくれたんです。来たばかりの彼女にも大きな不安や焦りがあるのに、こちらが与えよう、与えようとしていた親切は、自分たちの不安、焦りの解消の方を彼女のそれよりも優先させてしまった結果ではないかなと、気づかせてくれました。そういう気持ちで接していくうちに、息の詰まるような食卓の状態は消えていきました。どこの家庭も通過しなきゃならないトンネルのようなことだったのかもしれないけれど、Mちゃんが来て3カ月位して、買い物の帰りに、突然彼女の方から腕を組んできたんです。「はっ」と思ったけど、本当に嬉しかった。彼女からの初めてのスキンシップでした。それからすぐに、いつだったか忘れましたが、彼女の方から「ママ」、「パパ」と呼んでくれるようになりました。そして、その年の夏の前、彼女が「友だちを呼んできていい？」と聞いてきて、「もちろん呼んできていいよ」と返しました。友だちと大変楽しい時間を過ごし、それ以来彼女は休みになると友だちを家に連れて来るようになりました。漸くこの頃、この家庭が自分の家だという気持ちになってきたんだなという感じでした。

最後に、Mちゃんが高校3年生の時、一時保護所のことなどを振り返って書いた文書があります。少し長いのでそのところを一部だけ抜粋します。

「私の母は、ある日本人男性と再婚をし、私は日本に移り住むことになった。果たして日本で暮らしていけるのかという不安もあったが、それよりもたくさんの希望で胸がいっぱいだった。頭の中では将来の自分の姿が次々と描かれた。あこがれの日本での幸せな生活が待っているのだと信じていた。しかし、現実はそう甘くなかった。母の再婚相手といろんなトラブルが起きて、結局私は児童相談所に保護された。そこで自分を担当してくれた児童福祉司の方と、今後どうするかについて何度も話し合った。その結果、自分は母のいる家庭には戻らずに里親の元で暮らすことを決心し、里親を探すことになった。だが、私の場合、周りの日本人の子が里親に引き受けられていく中、外国人であるためになかなか里親を見つけることができなかった。なぜ13歳の自分が、何も悪いこともしていないのに一時保護所に四六時中いなければならないのか。毎日悲しい思いで過ごした。私の担当の児童福祉司の方は、そんな中で私の惨めな状況をよく理解してくれて、勇気と希望をくださった。今後のことについて、あきらめずに何度も話し合ってください。その結果、一時保護所で生活を始めて2カ月たったころ、ついに引き受けてくれる里親があらわれたと聞かされ、次の週、会うことが決まり、その後、その家庭に行くことが決まった……。」

15 おうちかえる～

【里母】

現在、6歳の女の子を1人預かっていて、2年半が過ぎました。

まず、里親になろうとしたきっかけは、結婚して子宝に恵まれなかったからです。夫は、私の子供が欲しいという気持ちはよくわかっていていましたので、あまり気が進まないようではありましたが、反対はしませんでした。

うちは就学前の女の子を希望していました。登録1年後、ようやく3歳の女の子と交流できることになり、乳児院に会いに行きました。滑り台のてっぺんにいる子に職員の方が「Aちゃん」と手を振ると、その子もこっちのほうを向いて手を振り返りました。かわいいと思いました。

下において庭に出ると、Aちゃんは、砂場で遊んでいました。私と夫と職員の方とでAちゃんのいる砂場の前まで行きました。私はしゃがんで二言三言言葉をかけてみましたが、Aちゃんは四つんばいになって何も言わず、とても困ったようにじっと固まっていました。

その後、Aちゃんは私を見ると保育士さんにしがみついて泣きました。私がほかの子供と遊んでいると陰に隠れて時々ちらっとこちらを見ますが、私が近づくと逃げ回ったり、職員さんに絡みついたり、最後に帰るときだけ「バイバーイ」と元気に言うんです。何回行っても、なかなか進歩がなくて、気が沈み、疲れがどっと出る感じでした。

そんな日が続いたある日、心理療法士さんから、「Aちゃんは初めお母さんと2人でべったりと暮らしていたんですね。それからこの乳児院に来て、その後別の里親さんのところに行ってまたここに帰ってきてという今までの経験から、親しくなって心を許すと後で自分が傷つくことになるということを学んでしまったんですね。あんな態度であっても、実はもうかなり信頼はしていると思います。一度何か楽しい経験をするそこからぐんと急速に近くなると思います」と言われ、私の気持ちもかなり楽になりました。「でも、Aちゃんが嫌だ嫌だとぎんぎん泣きわめいているような状態でお散歩に行きなさい、お出かけしてきなさいと押し出されても、無理やり連れて外を歩かせんし、それこそ子供をさらってきたと思われてしまいますよね」と不安な気持ちを伝えますと、「それは大丈夫です」と言われましたが、やっぱり不安でした。

その後も、保育士にしがみつき、暴れて泣くAちゃんとの格闘が続きましたが、途中からだんだん泣くのが治まってきました。初めは嫌がっても保育士と離れてしまえば大丈夫みたい、うちに連れてきてしまえば何とかなのではないかと思いました。

12月の末から何回か自宅への外出や外泊が始まりました。この頃から私は左足にしびれを感じるようになり、そのうちに両足とも痛くなり、また腰もと、体に不安を感じるようになってしまいました。整形外科に行っても何だかわからず、絶対におかしいのにどうしちゃったんだろうと思っていました。乳児院の職員さんからは、一度、前の里親さんと不調に終

わってしまっているのです、今度こそそれは避けたいと言われていましたし、心理療法士さんの話を思い返しても、この後私がAちゃんを返すようなことになったらまた傷ついてしまう、私だってせっかくここまでできているのに返したくありません。でも、返すことになってしまったら、もう二度とチャンスはないだろうと、悩んでいました。お泊まりの2回とも帰りは車で送りました。施設に着いて降ろそうとすると、「おうち帰る」とわっと泣き出しました。もううちの子です。

痛みが一番ひどいときに、「だっこ」と言われ、「だめ、腰が痛い。お願いだから」と言っても聞いてくれず、泣いてせがまれるのがとてもつらかったです。みんな子供がいれば当たり前のことなのでしょうが、その頃、家の中はどんどん汚くなって、理想と現実の違いを実感しました。

Aちゃんは元気な子で、年中布団をはねのけ、おなかを出して寝ていますが、まだ一度もおなかをこわしたことがありません。いつも跳びはね、走り回っていて、周りを見ずにどこでも突進していくので、危なっかしきはらはらせられます。指しゃぶりと爪をかむ癖もあり、手の爪は1度も切ったことがありません。これもどうしたものかと心配しています。

幼稚園は大好きで行くのを嫌がったことは一度もありません。靴も靴下も毎日真っ黒、どろどろに汚れて、服のポケットには、砂粒や木の実、葉っぱなどがいつも入っていて洗濯が大変ですが、お友達と元気に遊んでいる証拠とうれしくもあります。朝起こしに行くと、布団の中で逃げ回り、食事や着がえなどの支度は、しゃべったり遊んだりしていてちっとも進まず、「早く食べなさい。次は何するの。何やっているの」など、始終どなり、せかす毎日です。

幼稚園のお友達のお母さん方には、最初の懇談会のときに、「うちは養育家庭というのをしています、Aの里親で」と自己紹介はしていますが、そんなことは何も関係なく、ちっとも気にされず、私はAちゃんのママで通っています。

毎日見っていますが、本当に大きくなったなといつも思います。寝顔はとてもかわいらしく、見ていて飽きません。抱っこの感触は何とも言えずいいものです。

普通に親として気がかりなことや心配なことは幾つもありますが、親子関係では今のところ問題ありません。心配なことの幾つかは、個性でもあるかもしれませんが、これまでの生い立ちが影響しているかと考えることもあります。

私どものように、子供を育てたいと思っていてこの制度をまだご存じでないご夫婦も結構いらっしゃるのではないかと思います。子供は純粹ですから、一度信頼関係ができ上がってしまえばもう大丈夫で、どんなに怒られてもお母さん、お母さんです。小さいうちがいいと思います。子供たちみんなが当たり前の家庭での暮らしの中で大きくなれるようにと願います。

16 コウノトリが運んでくれた宝物

【里母】

我が家では、1年9ヶ月前に3歳の男の子を迎えました。実子がいないので、夫と私とHの3人家族です。

初めての面会の日、Hの暮らしている乳児院に行きました。事前に写真をもらっていたので、部屋に入っただけでこの子だと分かりました。Hは鼻の穴を膨らませて固まってしまいました。私たちも笑顔が引きつっていたかもしれません。お互い緊張でいっぱいになっていて、ただ見つめ合うばかりでした。その時の光景は今でもはっきりと覚えています。

交流を進め、初めて我が家に連れて帰る日は本当にドキドキしました。Hは走ったり、踊ったり、歌ったり、家中の家具や家電のスイッチを全部つけて回り、電気のスイッチをずっとパチパチ、テレビのリモコンをつけたたり消したり、ずっと動き回り、触りまくり、本棚の本を全部引っ張り出してみたり…。私はその後ろを追いかけて片付けて回り、それでも楽しく1日を過ごしました。

その後も外泊交流を繰り返し、3歳の誕生日の前日に長期外泊に入り、そのまま正式委託となりました。3歳の誕生日は一緒にお祝いしたいという私たちの想いがあったので、本当に嬉しくて親の私たちのほうが楽しい誕生日を過ごすことができました。でも、この長期外泊に入ってから、Hに振り回される毎日が始まりました。

毎日訳の分からないかんしゃくを起こし、一度泣き始めると2～3時間は泣き続け、その間暴れて私に体当たりしたり、拳で叩いたり、体が大きくて力が強い子だったので、本当に痛かったです。その相手だけで1日が終わってしまうこともありました。なぜか夫にはやらずに、私だけに繰り返しました。

それから、私から離れなくなりました。一日中抱っこで、10センチでも離れると泣き叫びました。当時3歳で97センチ、17キロあったHを抱っこして、スーパーまで片道30分歩き、帰りは片手にH、片手に荷物という日々を過ごしました。乳児院では取れていたオムツも、我が家に来た日から逆戻り。オムツをしているのに、わざと私の前でオムツを脱いで絨毯の上でおしっこをしたり、いろいろな事をやってくれました。研修では、「あまり叱らないで何があっても受け止めてあげてください」と言われていたので、毎日抱きしめて大好きだよと伝えて、スキンシップを大切にしました。

でも、そんな日々が3週間続いた頃、ついに私の気持ちが切れてしまいました。Hは私が泣くのを見て、初めはびっくりして自分は泣き止んでしまいました。そのうち「ママ、泣かないで」と言って一緒に泣き出し、2人で抱き合って30分くらい泣きました。翌日は児童相談所の方の家庭訪問の日でした。私は自分が泣いてしまったことに落ち込んでいましたが、「子供だって一人の人間ですから、そうやってぶつかって関係が出来ていくんですよ」との言葉で肩の力がふっと抜け、楽な気持ちになりました。

それからは、お互いに遠慮はなしという気持ちで真剣に向き合っていました。そうする

と、楽しいときは本当に楽しいのですが、ぶつかる時は本気なので、どちらかが根負けするまでという感じで結構大変な時もありました。でも、H はこちらが真剣に向き合ってぶつかった分だけ殻が剥がれていくようでした。

いろいろと考えた結果、我が家で生活を始めてから 2 ヶ月後に幼稚園に入園しました。後から、せめて 1 年は家でみっちりと関係を作ればよかったと後悔しました。H は慣れない環境が重なって本当に大変な思いをしたと思います。幼稚園から帰ってきてからのかんしゃくは、どんどんひどくなっていきました。同年代の子供に対しては、大人の愛情を取り合う敵という態度で打ち解けず、先生や他のお母さんに対しては注目してくれるまで愛嬌を振りまくような行動を取りました。そのような時は必ず、ママはあっちに行ってというような態度を取っていました。

初めの半年くらいは本当に大変で、毎日が必死であつという間でした。それを支えて励ましてくれたのは、夫でした。私は夫が仕事から帰ってくるのを待って、1 日の出来事を弾丸のようにしゃべりまくり、夫はどんなに仕事が大変なときも話をじっくり聞いてくれました。お休みの日には一緒に遊んで、私を休ませてくれました。大変なときを乗り切れたのは夫婦の協力があつたからこそだと思っています。

H と暮らし始めて 1 年が経った頃、突然他のお母さんたちみんなを「お母さん」と呼び出したことがあります。よく聞くと、H の頭の中には家族とかお父さん、お母さんという概念がないことに気が付きました。私はお母さんの意味を H に説明すると、H は本当にビックリしていました。それまで H は、友達のお母さんはみんなその子の担当の保育士さんだと思っていたようです。それから周りの大人たちに愛嬌を振りまく行動がだんだん収まってきました。

お母さんの話は、真実告知にもつながっていきました。私が「H もダンボと同じで、コウノトリさんが運んできたんだね。お父さんもお母さんもかわいい赤ちゃんが欲しいですと毎日お祈りしていたら、連れてきてくれたんだよ」と言うと、H は「そうか、コウノトリさん迷子になったから、だから H ちゃんは遅く来たんだね」「お母さんから生まれてくる子も、コウノトリさんが連れてくる子も、どちらも大切なかわいい家族なのよ」というように、分かりやすく楽しく話しをしています。H はこの話が大好きで何度も繰り返して言っていました。

うちに来た頃の臆病で新しいことには手を出せなかった H は、今ではどんなことにでも挑戦できるようになりました。子供は、安心して子供でいられる場所が必要なんだと、H を見ていると強く思います。これからも、H はパパとママの宝物だということをずっと伝えていきたいし、何かあったときに安心して帰ってこられる港でいたいと思います。たくさん笑って、泣いて、怒って、遊んで、毎日を丁寧に積み重ねていきたいです。そして H にもらっているこの幸せを、私たちも H にあげられたらいいなと思っています。

17 幸せ路線へ

【里母】

私たちにとって初めての里子ちゃんのKちゃんは2歳で、1ヶ月程お預かりする予定で我が家にやってきました。事前の交流は里母のみ2回しただけという心細いものでしたが、実子が8歳と3歳の女の子がいたので、我が子をあやすような気持ちで接しました。最初、Kちゃんはとても怖がって泣いていましたが、2回の交流ながら仲良くなることができ、我が家へ来るという事も彼女なりに理解していたようです。

何の問題もなく家に着いたのですが、一息つくと、いきなり「お父さんが怖い」と言い出しました。もちろん、事前に夫とは会った事も無いので、彼女が実の父親を怖がっているという事なのだと理解しました。その夜、夫が帰ってくると、彼女が話してくれた事が本当なのだと分かりました。実子達が玄関の音で「あ！お父さんがかえってきた！」と喜んで飛び上がると、正反対に「お父さん」という言葉にビクッと反応して号泣しているKちゃんがいたのです。仕方なく私が抱き締めて、「大丈夫だよ！怖くないんだよ」となだめましたがパニック状態で、お父さんが離れているしかありませんでした。

毎日帰ってくる度にパニックを起こす彼女の為に考えついたのは、柔らかいソファーに毛糸で編んだ大きなひざ掛けを置き、シェルターを作ったのです。「これはシェルターだから、怖いと思ったらここへ逃げ込む場所なんだよ。うちで怖いことは起きないけど、怖いと思ったらここへ逃げればいいんだからね」と教えたのです。まずは、彼女が安全と感じる場所を作ることが大切だと思ったからです。

彼女は「お父さん」という言葉が出る度に、夫が帰ってくる度にシェルターに逃げ込んで、毛糸の隙間から周りをじいっと見ていました。そこから、怖いと思っていた「お父さん」という存在を観察して、「怖くないんだ」という事を実感したみたいです。段々とシェルターに入っている時間が短くなって、2週間ほどで必要なくなりました。

彼女は本当に可愛らしい子なのですが、色々な場面で何かが難しくなっていました。下の階に住むおばあちゃんに挨拶しに行こうとして号泣。食事の度に、排泄の度に、何がきっかけとしてうわんうわん泣き出すのです。よく分からない私達にとっては、毎日の生活は急に緊迫したものになりました。食事の度に泣くので、熱々の食事が冷め切ってしまうという事は幾度もありました。本来なら楽しい幸せな時間が、彼女にとってはそう感じられなかったのでしょう。それでも、児童相談所の里親担当の方に話を聞いてもらったり、家族みんなの力を借りたりして少しずつ楽しい時間を増やしていく事ができました。

Kちゃんは注意される事も怖かったようです。「これはだめよ」という何気ない注意が、彼女にとっては恐怖でした。急に泣いて「眠い」と訴え始めるのです。そして、まるで覚めない悪夢の様に硬く目をつぶって泣くのです。泣いて「眠い。もう眠いの」と懇願するように言う彼女は、小さくて何の力も持たない分、必死に自分の事を怖い何かから守ろうとして

いるんだな、一生懸命生きているんだなと感じました。ただ、そんな方法でずっと逃げて生きていく訳にもいけないので、「Kちゃん、目をあけてごらん。本当にKちゃんが怖いと思っているお顔かな？よく見てごらん」と根気強く語り掛けました。すると最初は怖くてギュッと閉じた目を、少しずつ少しずつ細目から段々と開けてくれました。「同じ顔してる？」

「違う」「でも怖かったんだ？」「うん」と。こんなやり取りを何度もして、怖い事、辛い事から逃げるのではなく、違う方法を探そう！と彼女なりにチャレンジしていたようでした。里親とは、私は電車の切り替えポイントみたいだなと思います。Kちゃんの1つ1つの行動は不幸路線でした。食べたいのに「食べたくない」、欲しいのに「いらない」と、ことごとく彼女の思いとは反対の事をやって苦しんでいました。常に生活の中で、本当にやりたいのはどっち？と一緒に見極めて、望んでいる「幸せ」行きに積極的に進んでいく方法論を探す、そんなポイントになればと思います。

Kちゃんが段々と無邪気な笑顔になっていく中で、一番素敵な時間だなと思った瞬間があります。ある日曜日の暖かい日に、自転車で出かけたのです。信号待ちの間、ほんわか暖かい南風が吹いてきて、春のおひさまに照らされながら自転車の前かごにぼーっと、のんびりした表情でKちゃんが座っていました。それを見て、これが幸せだと実感しました。力を抜いて、この何気ない日常を、自然に楽しめることが、いかに大切に貴重なのかと思いました。里親が何を出来るかって、このささいな幸せと一緒に味わうということだけなのかも知れないとも思いました。

最後に、忘れられない言葉があります。サヨナラの前日、足りない服などをKちゃんと二人で買いに行ったのです。少し寒い風も吹いていて、バギーに乗った彼女に膝掛けを掛けてやりながら、ふと「この子本当に大丈夫かな。せっかく戻った笑顔が消えずにこの先元気に生きて行ってくれるかな」と我が子として本当に心配でした。泣き虫で、反対の事ばかりやるわけだから。でも、どうにかして幸せになって欲しい。そんな思いが溢れてしまって、何も言えずに、ただ「かわいいね」と頭をなでたのです。すると、Kちゃんは「泣いちゃダメだよ」と。私が泣きそうに見えたのでしょう。さらにKちゃんは「だめだよ。自分の気持ちに負けちゃだめだよ」と言ったのです。私が彼女にずっと言ってきた事です。本当に怖いかどうか、自分の気持ちに負けて目をつぶってしまっただけは見えない。「自分の気持ちに負けちゃだめだよ。ほら頑張っごらん」そう言ってきた事を、最後の最後でKちゃんに言われ、彼女の私を上回る成長振りに感動しました。正直涙が出そうでしたがグッとこらえて、「あんたには負けたよ。かーさんもがんばるね」と私が言うと、「ふふっ」と笑っていました。

どんな辛い時でも、この彼女がかけてくれた言葉を思い出します。そして、この言葉を持って里親を続けて行こう。もし、いつか再会出来る時に、彼女に負けない強く優しい人になりたいと思います。

18 長い交流を乗り越えて

【里母】

子供が来てまだ半年の新米ママですが、今までの1年間の心境をお話します。

2歳7ヶ月になる女の子Aちゃんが我が家に来て、7ヶ月になります。私たち夫婦は結婚20年になりますが、実子に恵まれませんでした。40代中盤にさしかかった頃、子供と触れ合いたいと急に思うようになり、それがきっかけで里親登録することになりました。

今からちょうど1年前、その時1歳7ヶ月だったAちゃんの話をしていただきました。生まれてからずっと乳児院で育ってきたAちゃんはとても人見知りする子でした。初めて乳児院を訪れた時の、彼女の顔を今でも忘れることができません。すごく意識する子で、私たちは何となく部屋を見渡すような感じでただ見ただけなのに、彼女だけがピクンと反応して固まってしまったのです。固まり方も尋常ではなく、顔の半分がカッと麻痺して固まる感じで、口からタラッとよだれが出ちゃって。部屋の端に座って全体を見学したのですが、その間ずっと固まっていました。

その後しばらくの交流は、何人かの子供の中に保育士さん達と一緒にボランティアさんのように加わりお付き合いしました。でも何度か通ううちに他の子は顔を覚えて寄ってきてくれるのに、彼女だけはいつまでたっても懐いてくれませんでした。

1ヶ月くらいで私がそこに存在していること自体には慣れ、近くに来れば触れるということくらいは出来るようになった時、初めて夫が会いに来ることになりました。その日は室内で遊んでいたのですが、夫が部屋に入ってきた途端「あつ」という感じで滑り台の下に駆け込み、30分出てきませんでした。そういう感じで、どちらかというと常に無表情で、笑顔もほとんどなかったのも、本音を言うと最初はかわいいと思うことができませんでした。それで、この子を本当に預かっていいのかを少し悩みました。

ある時、彼女の担当の保育士さんが部屋に入ってきた時のことです。満面の笑みでその方に近寄って行って、人格が違うんじゃないかと思うほどのはしゃぎようでした。しばらく遊んでいました。それを見たときに嫉妬心さえ生まれたくらいでした。その時、こんな部分もあるのだったらそういう存在の人になればいいと思い、もう少し頑張ってみようと思い直しました。

その後、私が働きかけても何とか拒否されなくなって、面会室で1対1の交流が始まりました。面会室で保育士さんが離れただけで大泣きし、2回目の交流も大泣きで中断。3回目の時、「泣き止むまで頑張って2人で過ごしてみますから、頑張らせてください」とお願いして、最後のほうでようやく泣き止みました。こんなことを繰り返しながら、なんとか1対1で過ごせるようになりました。

交流から5ヵ月後、Aちゃんの2歳の誕生日に初めて外出することになりました。ケーキ屋さんに行ってお誕生日のケーキを買おうとしたのですが、途中の道で大の字になって抵抗するのです。ケーキ屋さんにとっと辿り着き、お店に入って並んだケーキを見ても無反応

で、店員さんに声を掛けられても無愛想に無視し、店から出てきました。これがずっと続くなら人に可愛くない子だと思われるだろうな…と心配しました。

その 1 ヶ月後、少しずつの外泊を重ねた後に、ようやく長期外泊になって我が家にやってきました。最初はとにかく甘えさせてあげてくださいと言われていたので、危ないこと以外は甘えさせてあげるようにしたのですが、最初のうちは抱っこされることやおんぶ、頬ずりも嫌がりました。施設ではたくさんの子供がいるので、あまり経験がないのです。お風呂も毎日号泣で、隣人に虐待されていると思われたらどうしようと心配でした。公園に連れて行っても乗り物を怖がって乗りません。初めてのことを受け入れるのに少し時間のかかる子で、それが施設にいたことで更に強くなっていたのかと思います。

また、年齢にしては言葉の遅い子でした。子育てが初めての私には、言葉なしには子供の要求がわかりません。だから、最初の 3 ヶ月は本当に苦労しました。彼女も私も大変なストレスを抱えた時期でしたが、乳児院の保育士さんや児童相談所の方に相談し、なんとか乗り切ることができました。そして、3 ヶ月を過ぎた頃に突然シャワーのように言葉が溢れ出しました。話せるようになると本人も嬉しいようで、担当の保育士さんに出していた明るい性格が、その時初めて出ました。結構ひょうきんで、食いしん坊。来てから 3 ヶ月くらいの時には大人と同じくらいの量を食べるようになりました。ちょっと食べ過ぎかなと思い、あまり「食べたい、食べたい」と言うときは「あれ、ちょっとママ耳が聞こえなくなっちゃったから、何て言ってるかわからないな」というと、耳をふさいでいる私の手を一生懸命取って「聞こえて、聞こえて」と耳に口をつけて言うんです。その時初めて「ああ、可愛いな」と思い、その頃から本当に可愛いなと感じるようになりました。

人見知りも少しずつなくなり、お風呂も抱っこもおんぶも今は大好きで、ほっぺにキスもしてくれます。最初の頃と比べると、まるでうそのようです。

改めて、彼女の可愛い部分もたくさん分かった上で、今は反抗期の真っ只中です。3 歳を迎えるにあたって今は何でも「イヤ」です。でも、逆に言えば育児書に載っている悩みばかりになりました。他のママに相談しても、教えてもらえることばかりになったので、今は本当に普通の親子になったのかなと思います。

今思うと、子供と一緒に暮らしたいなんて、何て甘いことを考えたんだろうと思います。外から見ると実際に育てるのとでは大変さが全く違うことがよく分かりました。でも、その甘さがなければ今のような経験はできなかったし、やっぱりやって良かったなと本当に思っています。

先日、久しぶりにあのケーキ屋さんに行きました。嬉しそうにケーキを眺め、「これ、これ」と大きな声で喋り、愛想良く「バイバーイ」と挨拶していく A ちゃんを見て、良かったなと改めて思いました。これからもできるだけ長く見守っていきたいと思います。

19 子供にとっての新しい家族の形

【里父】

この4月から、3歳の男の子を預からせていただいております。私は、随分前から友人、知人から里親になるように勧められていましたが、もしかしたら実子を授かるかもしれないことと、10年前に脳梗塞で倒れた母親が4年前に再度発作を起こし、全身不随になってしまったことから介護もあり、今一步踏み出せないでいました。

昨年9月に、その母親が亡くなり、介護の時間を里子の養育に回せる気持ちの余裕ができ、研修を受けて登録させていただきました。

初めて、今うちで預かっている子を紹介されたのが11月で、本人の写真と履歴書をもって児童相談所の方が私の家に訪ねて来られました。家内と話し合っていたのは3歳くらいの男の子か女の子という条件だけで、とにかく一番最初に紹介された子を預かせてもらおうと決めていました。

12月25日に初めて、顔合わせをしましたが、最初からすごく懐いてくれて、この子ならいつでも連れてきて大丈夫だという気持ちが二人とも湧いていました。間隔をあげないう、1日おきに2人もしくはどちらかが顔を出しました。しょっちゅう施設に通いました。行く度に、僕たちの顔を見ると嬉しそうに「お父さん、お母さん」と駆け寄ってくるし、本当に自分達としては良い子とめぐり会えたと思いました。しかし、交流は施設全体の子と一緒にすぐ近くの公園を一周回って帰ってくるだけ。あとは面会室でブロック積みや絵本を読み、11時過ぎに手を洗いお昼を食べさせ、オムツを取り替えてさようならというのがずっと続きました。自分達は1日でも早く、うちに連れて行きたい。はやければ早いほど家に馴染んでくれるだろうといらいらしていました。

そうしているうちに、子供と夫婦で3人の外出の許可が出ました。施設では、事故が起きないように、怪我をしないように、安全を優先するあまり、動きがない生活をしています。歩けない子は5～6人乗りの乳母車に乗り、歩ける子は公園一周。私の膝の上に乘せて、お滑りやブランコをしましたが、ものすごく怖がりました。

交流を重ねていくうちに、1泊2日、2泊3日、間をあけて、一週間、間をあけて今度は1ヶ月。どうしてこんなに面倒くさいことをさせるんだろうと思いました。最後の1ヶ月の外泊が終わって、一旦施設に戻しました。「4月6日に迎えにきてください、それからはあなたのお宅でこの子を育ててください」と言われたのが正式な最後の言葉です。

迎えに行った当日は、新品の靴と靴下、シャツとズボン、それからアンパンマンのブロックセットを抱えて彼が玄関に現れたのを覚えています。

最初から、家族みんなが大賛成だったわけではありません。同居している弟や妹、父親は、家がひっちゃかめっちゃかになるのではと不安を抱いておりました。写真を見せたり、情報を伝えることで安心してくれ、今ではとても可愛がってくれています。私達の見えていないと

ころで、チョコレートを渡したり、ビスケットをポケットに入れたり頼まないことまでしてくれます。母を亡くして孤食・個食だった父も、里子が来て朝は「おはようございます」寝る前は「おやすみなさい」と言いにくるので、抱きしめて最高に喜んでいます。

また、交流をして驚いたことは、ブランコやお滑りができないこと以外に入浴のこともありました。施設の中で、ユニットバス、流し、茶ダンスがある一般家庭のような部屋があり、そこで朝から晩まで彼と過ごす経験をしました。朝、散歩に行って、帰ってきて遊んで、お昼を食べて、お昼寝をさせて、3時のおやつを食べて、お風呂に入れて、夕ご飯を食べさせて、さようならという1日コースです。そこで、甥も姪もたくさんいる私が、自信满满でお風呂に臨んだのですが、彼は全身を震わせて泣きました。施設では浅いお風呂に5～6人一緒に入るので、深い湯船でマンツーマンの入浴に抵抗を感じたようです。自宅でも、最初のうちは、大だらいを用意して10センチくらいお湯を入れて、おぼれない深さで遊びました。だんだん慣れてきて、今は一般的なお風呂に入っています。

職員の方が大事に大事に彼のことを育ててくれましたが、やはり手が足りないのが現実で、施設の子供達に遅れが出てきているのはそのためだと思います。今は、体があいている限り、午前と午後と私と家内が協力して、どちらかが必ず散歩や公園に行く。あるいは、三輪車に乗ったり、棒がついて安全が確保できるような二輪車に乗ったりして近所を走り回っています。

たった一人が増えたおかげで、家の中のバランスも良くなって、近所とのバランスも良くなって、本当にありがたい。本当にそう思います。最近はやっと反抗期が出ています。これから先も、もっと悩んだり苦しんだりすることが出てくるとは思いますが、甘んじて受けようと思います。僕達は、何歳までというのではなく、彼がいたかったら一生この家に居て良い、居たかったらいくつになってもここに居て良いんだよと家族で決めています。

今は、大人を独占できることを味わい、おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさん、いところが13人で、とても良い環境にあると思います。

社会に向かって大して何ができるわけじゃない自分がいろんな方のご尽力をいただいて、子供を紹介していただき、育てさせてもらっているということが、私は社会の一員としてとてもありがたいと思うし、本当に二の足を踏んでいる方がまだ周りにいるのであれば、「里親は早いうちにやったほうが良いですよ」と言いたい。

1人でも多くの子が施設ではなく、家庭で育っていけるような社会に向かって微々たるものではありますが、前進していきたいです。



平成21年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	講演会 講師名	担当児童相 談所	参加人数				
				養育家庭・ フレッドホーム	区市町村	民生・ 児童委員	一般・ その他	合計
7月9日	昭島市児童センターばれっと集会室		立川	3	3	4	8	18
9月14日	狛江市役所会議室		世田谷	2	7	3	5	17
9月29日	羽村市生涯学習センターゆとりぎ 講座室		立川	2	4	6	13	25
9月29日	文京シビックホール4階シルバーホール		センター	2	6	2	15	25
9月29日	小平元気村おがわ東		小平	4	3	1	8	16
10月2日	国分寺Lホール		小平	3	6	1	11	21
10月6日	台東一丁目区民館地下1階多目的室		センター	1	8	23	56	88
10月6日	調布市文化会館たづくり 8階映像シアター		多摩	4	11	9	17	41
10月8日	清瀬市児童センター会議室		小平	2	4	4	3	13
10月9日	立川市女性総合センター アイム第3学習室		立川	3	3	4	20	30
10月15日	西東京市住吉会館ルピナス		小平	3	5	14	12	34
10月20日	新宿区落合第一地域センター 多目的ホール	高山恵子	センター	3	10	22	29	64
10月22日	北区赤羽文化センター		北	1	0	7	16	24
10月22日	中野区勤労福祉会館		杉並	2	15	1	9	27
10月22日	福生市子ども応援館1階子育て地域活動室		立川	4	6	5	15	30
10月23日	日野市役所5階505会議室	片倉昭子	八王子	6	10	9	31	56
10月24日	狛江市中央公民館2階講座室		世田谷	2	2	4	7	15
10月25日	中央区立教育センター		センター	5	8	11	36	60
10月27日	武蔵村山市民総合センター3階会議室		小平	1	9	0	16	26
10月28日	墨田区役所 121会議室	野沢慎司	墨田	3	8	0	32	43
10月28日	多摩市立健康センター2階会議室		多摩	1	3	0	40	44
10月29日	荒川区ムーブ町屋		北	4	1	0	19	24
10月29日	八王子市生涯学習センタークリエイティブホール	大庭尚子	八王子	12	17	9	80	118
10月30日	三鷹産業プラザ		杉並	7	26	2	10	45
11月7日	港区立子ども家庭支援センター	渡井さゆり	センター	1	8	8	65	82
11月9日	武蔵野市中央コミュニティセンター		杉並	3	18	0	11	32
11月10日	府中市子ども家庭支援センター たっち		多摩	3	7	10	12	32
11月12日	小金井市前原暫定集会施設A会議室		小平	4	4	1	5	14
11月13日	板橋区グリーンホール		北	3	0	3	12	18
11月13日	東大和市子ども家庭支援センター会議室		小平	6	5	3	10	24
11月13日	町田市民フォーラム	辻野恵子	八王子	5	11	0	103	119
11月13日	あきる野市中央公民館第6・7研修室		立川	6	5	4	12	27
11月14日	稲城市地域振興プラザ4階		多摩	0	4	7	8	19
11月14日	大田区立消費者生活センター大会議室		品川	2	8	18	10	38
11月19日	東村山市民センター2階会議室		小平	4	2	14	35	55
11月21日	目黒区役所総合庁舎1階E会議室		品川	0	6	23	13	42
11月24日	葛飾区男女平等推進センター多目的ホール		足立	8	5	3	15	31
11月26日	豊島区民センター		センター	2	6	42	13	63
11月26日	東青梅センタービル会議室		立川	2	6	21	14	43
11月28日	品川区中小企業センター2階大講習室		品川	1	9	33	6	49
11月28日	アンサンブル荻窪		杉並	3	15	1	23	42
12月3日	足立区子ども家庭支援センター地域活動室I		足立	7	2	4	13	26
12月3日	東久留米市役所1階市民プラザ		小平	3	7	25	11	46
12月5日	世田谷区男女共同参画センター らぶらす	松居 直	世田谷	2	1	27	65	95
12月7日	江戸川区船堀タワーホール		墨田	2	17	33	33	85
12月7日	練馬区役所20階 交流会場		センター	1	11	2	22	36
12月7日	国立市役所第1・第2会議室		立川	1	2	0	16	19
1月19日	渋谷区役所地下A会議室		センター	2	7	1	23	33
1月30日	江東区南砂子育て支援センター		墨田	8	6	0	28	42
2月4日	瑞穂町元狭山コミュニティセンター		立川	2	3	11	11	27
3月8日	多摩市子育て総合センター		多摩	0	2	1	8	11
合 計				161	352	436	1105	2054

平成21年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	7/9 昭島	9/14 狛江①	9/29 羽村	9/29 文京	9/29 小平	10/2 国分寺	10/6 台東	10/6 調布	10/8 清瀬	10/9 立川	10/15 西東京	10/20 新宿	10/22 北	10/22 中野	10/22 墨田	10/23 日野	10/24 狛江②
年齢 ～20代	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	4	1	3	9	4
30代	2	2	3	6	1	0	4	2	0	1	5	3	1	6	3	2	2
40代	1	5	0	7	2	2	2	6	0	4	3	4	3	3	2	8	1
50代	3	4	8	4	0	0	13	9	1	2	6	11	9	0	3	8	4
60代～	2	5	2	4	0	3	37	6	1	4	9	14	5	1	4	8	4
不明・無回答	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	1	0
性別 男性	1	3	3	10	0	2	12	5	2	1	5	3	4	1	0	4	1
女性	6	13	10	10	3	3	38	20	0	11	19	29	18	10	14	29	14
不明・無回答	1	1	0	1	0	0	6	2	0	0	2	1	2	0	1	3	0
所属 養育家庭	1	2	0	0	0	1	0	3	0	2	1	3	1	0	1	0	2
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都職員	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	3	3	0
区市町村職員	3	7	1	5	0	0	6	1	0	1	0	5	0	1	2	1	2
民生児童委員	0	3	5	2	0	0	19	1	1	3	13	16	2	1	2	1	4
主任児童委員	3	0	0	1	1	1	2	2	0	0	0	3	6	0	2	7	0
学生	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	4	3
一般	0	4	3	9	2	2	6	11	1	4	10	1	8	9	3	12	4
その他	0	0	2	3	0	0	20	5	0	1	0	4	4	0	2	8	0
不明・無回答	1	1	1	0	0	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																	
区報・市報で	3	7	7	2	2	1	16	5	0	3	9	8	3	3	2	10	6
都報で	0	0	0	3	1	1	2	5	0	2	8	0	1	3	0	5	0
ポスターで	0	0	0	1	0	1	3	0	0	0	2	0	1	1	1	2	2
チラシで	1	8	1	3	1	3	17	5	0	3	4	7	2	2	5	8	6
インターネットで	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	3	2	0	3	1
知人に勧められて	3	0	3	0	0	0	6	2	0	1	1	0	11	2	1	3	1
過去に参加	3	0	3	2	0	1	8	4	0	5	6	5	1	2	3	7	3
問い合わせた	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0
その他	1	0	0	6	0	1	14	7	2	2	3	15	6	0	5	10	2
不明・無回答	1	2	0	0	0	0	5	2	0	0	0	2	0	0	0	1	0
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																	
養育家庭になりたい と思っていたから	0	0	1	3	0	0	1	3	1	3	3	0	0	1	2	1	0
養育家庭制度に興味・ 関心があったから	2	10	5	5	3	2	17	9	2	4	9	10	13	7	5	14	8
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	2	6	5	5	0	1	18	7	0	2	9	10	10	3	3	7	4
仕事や学問などの参 考にするため	5	0	2	5	2	1	16	8	1	3	9	17	9	3	7	18	2
その他	1	0	1	2	0	1	4	3	0	1	0	4	3	0	0	5	4
不明・無回答	0	1	0	0	0	1	7	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																	
とても良かった	3	6	10	7	3	1	21	16	2	8	10	11	11	8	8	11	8
良かった	3	9	3	9	0	2	21	7	0	3	12	16	12	0	3	21	2
普通	0	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	3	1	0	2	2	2
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	2	1	0	3	0	2	13	3	0	0	3	3	0	3	2	2	3
感想	5	0	6	6	3	5	33	12	2	6	7	16	15	7	9	16	0
アンケート回答	8	17	13	21	3	5	56	27	2	12	26	33	24	11	15	36	15
参加者総数	18	17	25	25	16	21	88	41	13	30	34	64	24	27	30	56	15

平成21年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/25 中矢	10/27 武蔵村山	10/28 墨田	10/28 多摩①	10/29 荒川	10/29 八王子	10/30 三鷹	11/7 港	11/9 武蔵野	11/10 府中	11/12 小金井	11/13 板橋	11/13 東大和	11/13 町田	11/13 あきる野	11/14 稲城	11/14 大田
年齢 ～20代	4	1	3	1	1	33	0	10	1	4	1	3	6	38	0	0	0
30代	6	1	2	5	5	20	1	6	3	1	0	4	0	5	2	0	3
40代	4	1	6	4	5	17	11	6	1	0	0	3	2	16	2	2	5
50代	2	0	8	7	7	19	7	11	5	5	0	2	2	4	3	0	9
60代～	8	5	7	13	2	7	2	13	1	10	0	5	3	5	3	7	15
不明・無回答	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
性別 男性	9	2	2	1	1	10	1	7	1	5	0	2	1	20	4	2	7
女性	15	6	22	30	18	86	20	39	10	14	1	15	12	48	6	7	27
不明・無回答	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0
所属 養育家庭	2	0	1	0	1	6	2	0	1	2	0	2	2	2	2	0	2
フレットホーム	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都職員	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	2
区市町村職員	0	0	0	0	12	19	7	1	0	1	0	1	0	14	0	1	1
民生児童委員	5	0	1	0	0	4	1	6	0	7	0	3	2	0	1	6	15
主任児童委員	0	0	0	0	0	3	1	1	0	1	0	0	1	0	2	0	1
学生	4	1	2	0	2	40	0	10	1	3	0	3	6	33	0	0	0
一般	12	5	14	24	5	14	8	25	5	5	1	5	2	4	2	2	8
その他	0	2	7	6	0	7	0	3	3	0	0	2	0	15	0	0	3
不明・無回答	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	2	0	2
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																	
区報・市報で	4	1	9	9	10	20	6	14	4	2	0	7	2	7	3	4	10
都報で	6	0	2	2	2	9	6	3	2	1	0	2	2	0	0	0	5
ポスターで	0	0	0	0	2	5	1	5	0	0	0	0	1	1	0	0	3
チラシで	6	3	4	4	5	19	3	4	3	9	0	1	5	16	4	3	8
インターネットで	1	0	0	0	2	0	2	6	1	3	0	0	0	1	0	0	3
知人に勧められて	4	3	2	2	3	3	0	10	1	2	0	0	3	6	1	0	1
過去に参加	3	0	1	1	2	4	1	7	0	4	0	0	3	12	5	2	4
問い合わせた	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	5	1	12	18	2	38	4	11	2	4	1	7	1	31	1	1	8
不明・無回答	1	0	0	2	1	3	2	1	0	1	0	1	0	5	0	1	1
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																	
養育家庭になりたい と思っていたから	2	0	2	2	1	7	3	7	1	1	1	1	1	0	0	0	4
養育家庭制度に興 味・関心があったから	13	6	6	4	7	21	13	31	7	5	0	6	7	15	4	5	23
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	5	0	11	11	10	18	5	11	2	8	0	5	4	12	4	5	7
仕事や学問などの参 考にするため	2	3	8	8	7	53	6	11	5	6	0	4	5	69	2	0	6
その他	2	0	8	6	0	10	2	2	0	2	0	3	0	12	2	0	3
不明・無回答	3	0	1	3	0	4	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	1
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																	
とても良かった	6	5	19	15	10	51	4	38	7	9	1	10	9	26	4	5	24
良かった	10	3	4	11	9	38	15	7	3	7	0	6	3	30	5	2	8
普通	4	0	2	2	0	3	1	0	0	2	0	0	1	8	0	0	0
あまり良くなかった	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
不明・無回答	2	0	1	3	1	4	1	1	1	2	0	2	0	3	1	2	2
感想	4	4	15	21	11	66	12	30	8	8	0	8	8	38	5	5	18
アンケート回答	24	8	26	31	20	96	21	46	11	20	1	18	13	69	10	9	34
参加者総数	60	26	43	44	24	118	45	82	32	32	14	18	24	119	27	19	38

平成21年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/19 東村山	11/21 目黒	11/24 葛飾	11/26 豊島	11/26 青梅	11/28 品川	11/28 杉並	12/3 足立	12/3 東久留米	12/5 世田谷	12/7 江戸川	12/7 練馬	12/7 国立	1/19 渋谷	1/30 江東	2/4 瑞穂	3/8 多摩	総計
年齢 ～20代	1	6	0	1	1	2	2	0	1	13	2	0	1	1	4	0	0	167
30代	6	1	1	3	1	2	2	1	2	8	1	3	4	1	1	0	0	144
40代	23	2	2	8	2	3	12	3	4	19	6	6	2	4	6	3	4	247
50代	5	11	3	10	6	16	3	4	5	11	13	5	1	2	5	4	1	281
60代～	11	16	2	25	21	23	5	2	19	23	34	3	0	3	0	7	0	409
不明・無回答	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	4	0	0	1	0	0	0	23
性別 男性	8	4	1	1	7	7	6	1	2	13	7	1	0	4	6	6	0	206
女性	38	31	7	43	21	38	18	9	29	60	47	16	8	8	10	7	5	1,018
不明・無回答	1	2	0	4	4	1	0	0	0	2	6	0	0	0	0	1	0	47
所属 養育家庭	1	0	3	0	1	0	1	3	1	0	1	2	0	0	2	0	0	57
フレットホーム	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5
都職員	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	3	0	1	2	0	0	0	32
区市町村職員	0	4	0	7	0	7	0	0	1	1	3	2	1	3	0	0	0	121
民生児童委員	12	15	3	28	18	27	1	3	22	24	33	3	0	1	0	10	1	325
主任児童委員	2	6	0	3	2	6	0	0	1	3	5	0	0	0	0	0	0	66
学生	0	4	0	0	0	0	2	0	0	9	3	1	0	0	2	0	0	138
一般	22	8	2	6	3	2	14	1	4	35	4	5	5	5	9	4	4	363
その他	9	0	0	1	5	2	3	3	2	1	5	4	1	1	1	0	0	135
不明・無回答	1	0	0	3	0	0	1	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	29
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																		
区報・市報で	10	16	2	14	12	22	2	0	12	20	14	5	1	1	2	7	2	341
都報で	3	2	0	2	1	3	2	1	3	2	5	1	2	1	2	1	0	104
ポスターで	3	2	0	1	1	2	0	0	0	9	1	0	1	0	0	0	0	52
チラシで	18	11	2	8	7	11	8	3	16	10	10	7	3	3	5	4	0	299
インターネットで	0	1	0	0	0	1	4	0	0	7	1	1	2	1	2	0	3	58
知人に勧められて	2	6	0	4	1	1	1	1	1	9	2	0	1	0	1	2	0	107
過去に参加	8	6	2	14	8	16	3	3	7	9	16	0	1	2	1	5	1	204
問い合わせた	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	5	0	0	2	2	0	1	24
その他	17	1	3	8	6	8	5	1	4	12	11	3	0	2	4	1	1	308
不明・無回答	2	1	1	3	0	0	1	1	0	0	4	1	0	0	0	1	0	47
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																		
養育家庭になりたい と思っていたから	1	2	0	1	0	0	10	1	3	3	0	1	2	2	3	0	0	81
養育家庭制度に興 味・関心があったから	22	23	3	22	10	19	10	5	17	33	15	8	2	8	10	8	1	514
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	25	7	4	8	6	13	0	4	8	31	19	4	4	0	2	7	2	354
仕事や学問などの参 考にするため	10	8	1	8	11	18	7	1	10	21	16	3	2	4	0	1	1	425
その他	5	3	0	7	7	10	2	0	0	7	7	1	0	0	2	0	2	134
不明・無回答	2	1	0	6	3	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0	47
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	32	23	4	38	14	27	10	5	27	48	34	7	2	9	11	5	5	688
良かった	11	9	4	7	10	13	9	1	4	16	12	9	3	3	5	7	0	407
普通	1	0	0	0	4	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	1	0	50
あまり良くなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	6
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明・無回答	2	5	0	3	4	6	5	4	0	10	12	0	1	0	0	1	0	119
感想	22	23	4	28	18	34	12	8	22	38	22	4	3	0	4	5	3	659
アンケート回答	47	37	8	48	32	46	24	10	31	75	60	17	8	12	16	14	5	1,271
参加者総数	55	42	31	63	43	49	42	26	46	95	85	36	19	33	42	27	11	2,054

**養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのでき
ない子供たちを養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活
し、養育していただく里親制度です。**

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格はあるの？

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。
配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、
養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ お預かりいただく子供は？

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、お
おむね 18 歳までの子供です。

★ お預かりいただく期間は？

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させ
ていただきます。

★ 養育に係る費用は？

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の
額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子供の養育を一時的に休息できます。
- ほっとファミリーどうしが集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4135

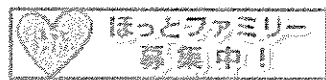
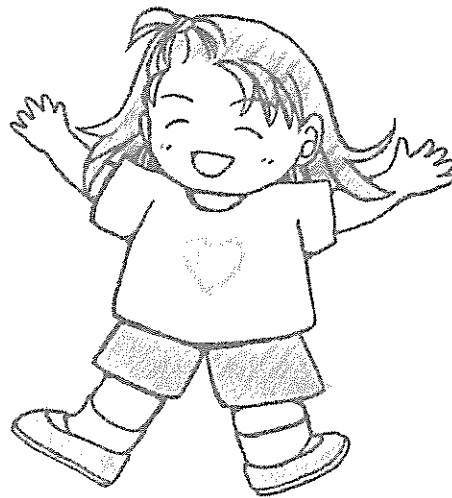
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>

MEMO

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

MEMO

[illegible]



こちらのホームページもご覧下さい。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



養育家庭体験発表集
平成22年9月発行

登録番号(22)141

発行 東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿2-8-1
電話03(5320)4135 FAX03(5388)1406
印刷所 東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西2-22-26
電話03(3762)7611

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。